

## 交付図書の訂正について

令和4年12月19日付けで入札公告を行った「東北自動車道 栗原インターチェンジ工事」に係る交付図書に一部誤りがあったため、別添のとおり訂正します。

なお、訂正した交付図書は、競争参加資格申請者に送付致します。

令和5年1月26日

契約責任者

東日本高速道路株式会社

東北支社長 田仲 博幸

### 【訂正内容】

- ・ 特記仕様書
- ・ 金抜設計書
- ・ 割掛対象表参考内訳書
- ・ 数量明細表
- ・ 設計図（後沢橋（下部工））
- ・ 設計図（函渠工）
- ・ 設計図（詳細図）

※訂正箇所は、別添「正誤表」をご確認ください。

東北自動車道  
栗原インターチェンジ工事  
交付図書正誤表

令和 5年 1月

東日本高速道路株式会社 東北支社  
仙台工事事務所

対象	誤	正	備考																																							
特記仕様書																																										
5-1 対象となる資材等	<p><b>5. 材料調達に伴う変更</b>  5-1 対象となる資材等  骨材、土砂、仮設材（鋼材）については、以下の調達地域等から調達することを想定しているが、安定的な確保を図るために、当初調達地域等以外から調達せざるを得ない場合には、事前に材料調達変更計画書（様式-4）を監督員に提出のうえ協議するものとする。  また、協議の結果、監督員が必要と認めて当初調達地域以外からの調達を指示した場合、受注者はその指示に従うものとし、当該地区からの調達完了後、購入費用及び輸送費等に要した費用の証明書類（実際の取引伝票等）を添付した材料調達実績報告書（様式-5）を監督員に提出し、その費用については監督員と受注者とで協議により定めるものとする。  なお、受注者の都合により調達した資材は協議対象としないものとする。</p> <table border="1" data-bbox="468 506 1486 1283"> <thead> <tr> <th>資材名</th> <th>規格</th> <th>調達地域等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">骨材</td> <td>クラッシャーラン（40～0mm）</td> <td rowspan="4">宮城県栗原市</td> </tr> <tr> <td>再生クラッシャーラン（40～0mm）</td> </tr> <tr> <td>土砂</td> <td>下部路体用土砂（盛土工 A3）</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">仮設鋼材 リース材</td> <td>構造物掘削 特殊部Cにて使用する仮設鋼材 普通鋼矢板Ⅳ型</td> <td rowspan="4">宮城県内</td> </tr> <tr> <td>仮設落石防護柵にて使用する仮設鋼材 壁面材0.5×3.0 壁面材1.0×3.0 壁面材1.5×3.0 覆工板1000×3000×212</td> </tr> <tr> <td>仮設防護柵にて使用する仮設鋼材 H鋼基礎式ガードレール 移動式プレハブガードレール</td> </tr> <tr> <td>高圧噴射攪拌工にて使用する仮設鋼材 H-300×300×10×15</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">仮設鋼材 中古品</td> <td>構造物掘削 特殊部A・B・Dにて使用する仮設鋼材 普通鋼矢板Ⅲ型 普通鋼矢板Ⅳ型 仮設落石防護柵工にて使用する仮設鋼材 H-200×200×8×12</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>[-200×80×7.5×11]</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ただし、上表に示すもののうち長さ3m以下のものはリースとしない。</p> <p>5-2 虚偽申告  受注者から提出された資料に虚偽の申告があった場合については、法的措置及び競争参加資格停止等の措置を行う場合がある。</p> <p><b>6. 配置技術者について</b>  6-1 配置技術者の経験  現場代理人、主任技術者、監理技術者のうち、いずれかの者が平成19年度以降に元請として完成及び引渡が完了した土工工事の工事経験を有すること。（共同企業体の構成員としての工事経験は、出資比率が20%以上の場合のものに限る。）</p>	資材名	規格	調達地域等	骨材	クラッシャーラン（40～0mm）	宮城県栗原市	再生クラッシャーラン（40～0mm）	土砂	下部路体用土砂（盛土工 A3）	仮設鋼材 リース材	構造物掘削 特殊部Cにて使用する仮設鋼材 普通鋼矢板Ⅳ型	宮城県内	仮設落石防護柵にて使用する仮設鋼材 壁面材0.5×3.0 壁面材1.0×3.0 壁面材1.5×3.0 覆工板1000×3000×212	仮設防護柵にて使用する仮設鋼材 H鋼基礎式ガードレール 移動式プレハブガードレール	高圧噴射攪拌工にて使用する仮設鋼材 H-300×300×10×15	仮設鋼材 中古品	構造物掘削 特殊部A・B・Dにて使用する仮設鋼材 普通鋼矢板Ⅲ型 普通鋼矢板Ⅳ型 仮設落石防護柵工にて使用する仮設鋼材 H-200×200×8×12		[-200×80×7.5×11]		<p><b>5. 材料調達に伴う変更</b>  5-1 対象となる資材等  骨材、土砂、仮設材（鋼材）については、以下の調達地域等から調達することを想定しているが、安定的な確保を図るために、当初調達地域等以外から調達せざるを得ない場合には、事前に材料調達変更計画書（様式-4）を監督員に提出のうえ協議するものとする。  また、協議の結果、監督員が必要と認めて当初調達地域以外からの調達を指示した場合、受注者はその指示に従うものとし、当該地区からの調達完了後、購入費用及び輸送費等に要した費用の証明書類（実際の取引伝票等）を添付した材料調達実績報告書（様式-5）を監督員に提出し、その費用については監督員と受注者とで協議により定めるものとする。  なお、受注者の都合により調達した資材は協議対象としないものとする。</p> <table border="1" data-bbox="1656 506 2674 1283"> <thead> <tr> <th>資材名</th> <th>規格</th> <th>調達地域等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">骨材</td> <td>クラッシャーラン（40～0mm）</td> <td rowspan="4">宮城県栗原市</td> </tr> <tr> <td>再生クラッシャーラン（40～0mm）</td> </tr> <tr> <td>土砂</td> <td>下部路体用土砂（盛土工 A3）</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">仮設鋼材 リース材</td> <td>構造物掘削 特殊部Cにて使用する仮設鋼材 普通鋼矢板Ⅳ型</td> <td rowspan="4">宮城県内</td> </tr> <tr> <td>仮設落石防護柵にて使用する仮設鋼材 壁面材0.5×3.0 壁面材1.0×3.0 壁面材1.5×3.0 覆工板1000×3000×212 H-200×200×8×12</td> </tr> <tr> <td>仮設防護柵にて使用する仮設鋼材 H鋼基礎式ガードレール 移動式プレハブガードレール</td> </tr> <tr> <td>高圧噴射攪拌工にて使用する仮設鋼材 H-300×300×10×15</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">仮設鋼材 中古品</td> <td>構造物掘削 特殊部A・B・Dにて使用する仮設鋼材 普通鋼矢板Ⅲ型 普通鋼矢板Ⅳ型 仮設落石防護柵にて使用する仮設鋼材 [-200×80×7.5×11]</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ただし、上表に示すもののうち長さ3m以下のものはリースとしない。</p> <p>5-2 虚偽申告  受注者から提出された資料に虚偽の申告があった場合については、法的措置及び競争参加資格停止等の措置を行う場合がある。</p> <p><b>6. 配置技術者について</b>  6-1 配置技術者の経験  現場代理人、主任技術者、監理技術者のうち、いずれかの者が平成19年度以降に元請として完成及び引渡が完了した土工工事の工事経験を有すること。（共同企業体の構成員としての工事経験は、出資比率が20%以上の場合のものに限る。）</p>	資材名	規格	調達地域等	骨材	クラッシャーラン（40～0mm）	宮城県栗原市	再生クラッシャーラン（40～0mm）	土砂	下部路体用土砂（盛土工 A3）	仮設鋼材 リース材	構造物掘削 特殊部Cにて使用する仮設鋼材 普通鋼矢板Ⅳ型	宮城県内	仮設落石防護柵にて使用する仮設鋼材 壁面材0.5×3.0 壁面材1.0×3.0 壁面材1.5×3.0 覆工板1000×3000×212 H-200×200×8×12	仮設防護柵にて使用する仮設鋼材 H鋼基礎式ガードレール 移動式プレハブガードレール	高圧噴射攪拌工にて使用する仮設鋼材 H-300×300×10×15	仮設鋼材 中古品	構造物掘削 特殊部A・B・Dにて使用する仮設鋼材 普通鋼矢板Ⅲ型 普通鋼矢板Ⅳ型 仮設落石防護柵にて使用する仮設鋼材 [-200×80×7.5×11]			訂正
資材名	規格	調達地域等																																								
骨材	クラッシャーラン（40～0mm）	宮城県栗原市																																								
	再生クラッシャーラン（40～0mm）																																									
土砂	下部路体用土砂（盛土工 A3）																																									
仮設鋼材 リース材	構造物掘削 特殊部Cにて使用する仮設鋼材 普通鋼矢板Ⅳ型		宮城県内																																							
	仮設落石防護柵にて使用する仮設鋼材 壁面材0.5×3.0 壁面材1.0×3.0 壁面材1.5×3.0 覆工板1000×3000×212																																									
	仮設防護柵にて使用する仮設鋼材 H鋼基礎式ガードレール 移動式プレハブガードレール																																									
	高圧噴射攪拌工にて使用する仮設鋼材 H-300×300×10×15																																									
仮設鋼材 中古品	構造物掘削 特殊部A・B・Dにて使用する仮設鋼材 普通鋼矢板Ⅲ型 普通鋼矢板Ⅳ型 仮設落石防護柵工にて使用する仮設鋼材 H-200×200×8×12																																									
	[-200×80×7.5×11]																																									
資材名	規格	調達地域等																																								
骨材	クラッシャーラン（40～0mm）	宮城県栗原市																																								
	再生クラッシャーラン（40～0mm）																																									
土砂	下部路体用土砂（盛土工 A3）																																									
仮設鋼材 リース材	構造物掘削 特殊部Cにて使用する仮設鋼材 普通鋼矢板Ⅳ型		宮城県内																																							
	仮設落石防護柵にて使用する仮設鋼材 壁面材0.5×3.0 壁面材1.0×3.0 壁面材1.5×3.0 覆工板1000×3000×212 H-200×200×8×12																																									
	仮設防護柵にて使用する仮設鋼材 H鋼基礎式ガードレール 移動式プレハブガードレール																																									
	高圧噴射攪拌工にて使用する仮設鋼材 H-300×300×10×15																																									
仮設鋼材 中古品	構造物掘削 特殊部A・B・Dにて使用する仮設鋼材 普通鋼矢板Ⅲ型 普通鋼矢板Ⅳ型 仮設落石防護柵にて使用する仮設鋼材 [-200×80×7.5×11]																																									
	3	3																																								

対象	誤	正	備考																																																																																										
特記仕様書 26-4-2 仮設材	<table border="1" data-bbox="474 237 1486 842"> <tr> <td>特殊部 B</td> <td>設計図書及び監督員の指示に従って行う築館25（延伸）における構造物掘削 1) 現場発生土による施工ヤードの盛土 2) 油圧式杭圧入引抜機式バイプロハンマによる鋼矢板の打込み 3) 鋼矢板による土留めを用いた掘削、掘削土の積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 4) 施工ヤード盛土の掘削、積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 5) 鋼矢板の存置、鋼矢板の切断、スクラップ処理 6) 掘削土を用いた中詰め盛土 7) 含水比の調整</td> </tr> <tr> <td>特殊部 C</td> <td>設計図書及び監督員の指示に従って行う料金所地下通路における構造物掘削 1) 電動式バイプロハンマによる鋼矢板の打込み 2) 鋼矢板による土留めを用いた掘削、水替え、切込砕石による置換 3) 掘削土の積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 4) 電動式バイプロハンマによる鋼矢板の引抜き 5) 含水比の調整</td> </tr> <tr> <td>特殊部 D</td> <td>設計図書及び監督員の指示に従って行うEランプ橋A1橋台における構造物掘削 1) 電動式バイプロハンマによる鋼矢板の打込み 2) 鋼矢板による土留めを用いた掘削、掘削土の積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 3) 鋼矢板の存置 5) 鋼矢板の切断、スクラップ処理 6) 含水比の調整</td> </tr> </table> <p data-bbox="504 846 1472 898">鋼矢板打込みの際に、現地条件より打込み不可及び高止まりになった時は、監督員の立会い確認後打込み機械規格及び打込み工法等の変更を協議により変更するものとする。</p> <p data-bbox="474 926 700 951">26-4-2 仮設材</p> <p data-bbox="522 953 1121 978">構造物掘削特殊部に用いる仮設材は、下表のとおりとする。</p> <p data-bbox="522 980 1234 1005">受注者の都合で、設置期間が変更になっても設計変更の対象としない。</p> <table border="1" data-bbox="474 1008 1486 1266"> <thead> <tr> <th>単価表の項目</th> <th>材料規格等</th> <th>材料区分</th> <th>調達地域</th> <th>設置期間</th> <th>摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">特殊部 A</td> <td>普通鋼矢板Ⅳ型</td> <td rowspan="4">中古品</td> <td rowspan="4">宮城県</td> <td rowspan="4">-</td> <td>存置</td> </tr> <tr> <td>普通鋼矢板Ⅳ型コーナー部材</td> <td>存置</td> </tr> <tr> <td>普通鋼矢板Ⅲ型</td> <td>存置</td> </tr> <tr> <td>普通鋼矢板Ⅲ型コーナー部材</td> <td>存置</td> </tr> <tr> <td>特殊部 B</td> <td>普通鋼矢板Ⅲ型</td> <td>中古品</td> <td>宮城県</td> <td>-</td> <td>存置</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">特殊部 C</td> <td>普通鋼矢板Ⅲ型</td> <td rowspan="2">リース品</td> <td rowspan="2">宮城県</td> <td>3カ月</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>普通鋼矢板Ⅲ型コーナー部材</td> <td>3カ月</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>特殊部 D</td> <td>普通鋼矢板Ⅲ型</td> <td>中古品</td> <td>宮城県</td> <td>-</td> <td>存置</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="474 1293 679 1318">26-4-3 施工</p> <p data-bbox="483 1320 1492 1400">(1) 構造物掘削にあたって、善良な施工が行われたにもかかわらず、掘削のり面の補強対策を実施する必要が生じた場合、又は安全上の観点から、応急的に受注者が行った対策等の費用については、監督員が必要と認めたものに限り、監督員と受注者で協議し定めるものとする。</p> <p data-bbox="483 1402 1492 1482">(2) 掘削において、1～2台程度の通常ポンプ排水で処理することができない著しい湧水等により特別な排水施設の必要があると認められ監督員が工法等の変更を指示した場合、受注者はその指示に従うものとし、これに要する費用については、監督員と受注者で協議し定めるものとする。</p> <p data-bbox="483 1484 1492 1564">(3) 掘削中に予期しない転石等に遭遇した場合は、その処理方法について監督員と協議するものとする。なお、監督員が工法の変更を必要と指示した場合、これに要する費用については、監督員と受注者で協議し定めるものとする。</p>	特殊部 B	設計図書及び監督員の指示に従って行う築館25（延伸）における構造物掘削 1) 現場発生土による施工ヤードの盛土 2) 油圧式杭圧入引抜機式バイプロハンマによる鋼矢板の打込み 3) 鋼矢板による土留めを用いた掘削、掘削土の積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 4) 施工ヤード盛土の掘削、積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 5) 鋼矢板の存置、鋼矢板の切断、スクラップ処理 6) 掘削土を用いた中詰め盛土 7) 含水比の調整	特殊部 C	設計図書及び監督員の指示に従って行う料金所地下通路における構造物掘削 1) 電動式バイプロハンマによる鋼矢板の打込み 2) 鋼矢板による土留めを用いた掘削、水替え、切込砕石による置換 3) 掘削土の積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 4) 電動式バイプロハンマによる鋼矢板の引抜き 5) 含水比の調整	特殊部 D	設計図書及び監督員の指示に従って行うEランプ橋A1橋台における構造物掘削 1) 電動式バイプロハンマによる鋼矢板の打込み 2) 鋼矢板による土留めを用いた掘削、掘削土の積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 3) 鋼矢板の存置 5) 鋼矢板の切断、スクラップ処理 6) 含水比の調整	単価表の項目	材料規格等	材料区分	調達地域	設置期間	摘要	特殊部 A	普通鋼矢板Ⅳ型	中古品	宮城県	-	存置	普通鋼矢板Ⅳ型コーナー部材	存置	普通鋼矢板Ⅲ型	存置	普通鋼矢板Ⅲ型コーナー部材	存置	特殊部 B	普通鋼矢板Ⅲ型	中古品	宮城県	-	存置	特殊部 C	普通鋼矢板Ⅲ型	リース品	宮城県	3カ月	-	普通鋼矢板Ⅲ型コーナー部材	3カ月	-	特殊部 D	普通鋼矢板Ⅲ型	中古品	宮城県	-	存置	<table border="1" data-bbox="1656 237 2671 842"> <tr> <td>特殊部 B</td> <td>設計図書及び監督員の指示に従って行う築館25（延伸）における構造物掘削 1) 現場発生土による施工ヤードの盛土 2) 油圧式杭圧入引抜機式バイプロハンマによる鋼矢板の打込み 3) 鋼矢板による土留めを用いた掘削、掘削土の積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 4) 施工ヤード盛土の掘削、積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 5) 鋼矢板の存置、鋼矢板の切断、スクラップ処理 6) 掘削土を用いた中詰め盛土 7) 含水比の調整</td> </tr> <tr> <td>特殊部 C</td> <td>設計図書及び監督員の指示に従って行う料金所地下通路における構造物掘削 1) 電動式バイプロハンマによる鋼矢板の打込み 2) 鋼矢板による土留めを用いた掘削、水替え、切込砕石による置換 3) 掘削土の積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 4) 電動式バイプロハンマによる鋼矢板の引抜き 5) 含水比の調整</td> </tr> <tr> <td>特殊部 D</td> <td>設計図書及び監督員の指示に従って行うEランプ橋A1橋台における構造物掘削 1) 電動式バイプロハンマによる鋼矢板の打込み 2) 鋼矢板による土留めを用いた掘削、掘削土の積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 3) 鋼矢板の存置 5) 鋼矢板の切断、スクラップ処理 6) 含水比の調整</td> </tr> </table> <p data-bbox="1685 846 2653 898">鋼矢板打込みの際に、現地条件より打込み不可及び高止まりになった時は、監督員の立会い確認後打込み機械規格及び打込み工法等の変更を協議により変更するものとする。</p> <p data-bbox="1656 926 1881 951">26-4-2 仮設材</p> <p data-bbox="1703 953 2303 978">構造物掘削特殊部に用いる仮設材は、下表のとおりとする。</p> <p data-bbox="1703 980 2415 1005">受注者の都合で、設置期間が変更になっても設計変更の対象としない。</p> <table border="1" data-bbox="1656 1008 2671 1266"> <thead> <tr> <th>単価表の項目</th> <th>材料規格等</th> <th>材料区分</th> <th>調達地域</th> <th>設置期間</th> <th>摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">特殊部 A</td> <td>普通鋼矢板Ⅳ型</td> <td rowspan="4">中古品</td> <td rowspan="4">宮城県</td> <td rowspan="4">-</td> <td>存置</td> </tr> <tr> <td>普通鋼矢板Ⅳ型コーナー部材</td> <td>存置</td> </tr> <tr> <td>普通鋼矢板Ⅲ型</td> <td>存置</td> </tr> <tr> <td>普通鋼矢板Ⅲ型コーナー部材</td> <td>存置</td> </tr> <tr> <td>特殊部 B</td> <td>普通鋼矢板Ⅲ型</td> <td>中古品</td> <td>宮城県</td> <td>-</td> <td>存置</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">特殊部 C</td> <td>普通鋼矢板Ⅳ型</td> <td rowspan="2">リース品</td> <td rowspan="2">宮城県</td> <td>3カ月</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>普通鋼矢板Ⅳ型コーナー部材</td> <td>3カ月</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>特殊部 D</td> <td>普通鋼矢板Ⅲ型</td> <td>中古品</td> <td>宮城県</td> <td>-</td> <td>存置</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1656 1293 1860 1318">26-4-3 施工</p> <p data-bbox="1665 1320 2674 1400">(1) 構造物掘削にあたって、善良な施工が行われたにもかかわらず、掘削のり面の補強対策を実施する必要が生じた場合、又は安全上の観点から、応急的に受注者が行った対策等の費用については、監督員が必要と認めたものに限り、監督員と受注者で協議し定めるものとする。</p> <p data-bbox="1665 1402 2674 1482">(2) 掘削において、1～2台程度の通常ポンプ排水で処理することができない著しい湧水等により特別な排水施設の必要があると認められ監督員が工法等の変更を指示した場合、受注者はその指示に従うものとし、これに要する費用については、監督員と受注者で協議し定めるものとする。</p> <p data-bbox="1665 1484 2674 1564">(3) 掘削中に予期しない転石等に遭遇した場合は、その処理方法について監督員と協議するものとする。なお、監督員が工法の変更を必要と指示した場合、これに要する費用については、監督員と受注者で協議し定めるものとする。</p>	特殊部 B	設計図書及び監督員の指示に従って行う築館25（延伸）における構造物掘削 1) 現場発生土による施工ヤードの盛土 2) 油圧式杭圧入引抜機式バイプロハンマによる鋼矢板の打込み 3) 鋼矢板による土留めを用いた掘削、掘削土の積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 4) 施工ヤード盛土の掘削、積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 5) 鋼矢板の存置、鋼矢板の切断、スクラップ処理 6) 掘削土を用いた中詰め盛土 7) 含水比の調整	特殊部 C	設計図書及び監督員の指示に従って行う料金所地下通路における構造物掘削 1) 電動式バイプロハンマによる鋼矢板の打込み 2) 鋼矢板による土留めを用いた掘削、水替え、切込砕石による置換 3) 掘削土の積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 4) 電動式バイプロハンマによる鋼矢板の引抜き 5) 含水比の調整	特殊部 D	設計図書及び監督員の指示に従って行うEランプ橋A1橋台における構造物掘削 1) 電動式バイプロハンマによる鋼矢板の打込み 2) 鋼矢板による土留めを用いた掘削、掘削土の積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 3) 鋼矢板の存置 5) 鋼矢板の切断、スクラップ処理 6) 含水比の調整	単価表の項目	材料規格等	材料区分	調達地域	設置期間	摘要	特殊部 A	普通鋼矢板Ⅳ型	中古品	宮城県	-	存置	普通鋼矢板Ⅳ型コーナー部材	存置	普通鋼矢板Ⅲ型	存置	普通鋼矢板Ⅲ型コーナー部材	存置	特殊部 B	普通鋼矢板Ⅲ型	中古品	宮城県	-	存置	特殊部 C	普通鋼矢板Ⅳ型	リース品	宮城県	3カ月	-	普通鋼矢板Ⅳ型コーナー部材	3カ月	-	特殊部 D	普通鋼矢板Ⅲ型	中古品	宮城県	-	存置	訂正
特殊部 B	設計図書及び監督員の指示に従って行う築館25（延伸）における構造物掘削 1) 現場発生土による施工ヤードの盛土 2) 油圧式杭圧入引抜機式バイプロハンマによる鋼矢板の打込み 3) 鋼矢板による土留めを用いた掘削、掘削土の積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 4) 施工ヤード盛土の掘削、積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 5) 鋼矢板の存置、鋼矢板の切断、スクラップ処理 6) 掘削土を用いた中詰め盛土 7) 含水比の調整																																																																																												
特殊部 C	設計図書及び監督員の指示に従って行う料金所地下通路における構造物掘削 1) 電動式バイプロハンマによる鋼矢板の打込み 2) 鋼矢板による土留めを用いた掘削、水替え、切込砕石による置換 3) 掘削土の積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 4) 電動式バイプロハンマによる鋼矢板の引抜き 5) 含水比の調整																																																																																												
特殊部 D	設計図書及び監督員の指示に従って行うEランプ橋A1橋台における構造物掘削 1) 電動式バイプロハンマによる鋼矢板の打込み 2) 鋼矢板による土留めを用いた掘削、掘削土の積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 3) 鋼矢板の存置 5) 鋼矢板の切断、スクラップ処理 6) 含水比の調整																																																																																												
単価表の項目	材料規格等	材料区分	調達地域	設置期間	摘要																																																																																								
特殊部 A	普通鋼矢板Ⅳ型	中古品	宮城県	-	存置																																																																																								
	普通鋼矢板Ⅳ型コーナー部材				存置																																																																																								
	普通鋼矢板Ⅲ型				存置																																																																																								
	普通鋼矢板Ⅲ型コーナー部材				存置																																																																																								
特殊部 B	普通鋼矢板Ⅲ型	中古品	宮城県	-	存置																																																																																								
特殊部 C	普通鋼矢板Ⅲ型	リース品	宮城県	3カ月	-																																																																																								
	普通鋼矢板Ⅲ型コーナー部材			3カ月	-																																																																																								
特殊部 D	普通鋼矢板Ⅲ型	中古品	宮城県	-	存置																																																																																								
特殊部 B	設計図書及び監督員の指示に従って行う築館25（延伸）における構造物掘削 1) 現場発生土による施工ヤードの盛土 2) 油圧式杭圧入引抜機式バイプロハンマによる鋼矢板の打込み 3) 鋼矢板による土留めを用いた掘削、掘削土の積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 4) 施工ヤード盛土の掘削、積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 5) 鋼矢板の存置、鋼矢板の切断、スクラップ処理 6) 掘削土を用いた中詰め盛土 7) 含水比の調整																																																																																												
特殊部 C	設計図書及び監督員の指示に従って行う料金所地下通路における構造物掘削 1) 電動式バイプロハンマによる鋼矢板の打込み 2) 鋼矢板による土留めを用いた掘削、水替え、切込砕石による置換 3) 掘削土の積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 4) 電動式バイプロハンマによる鋼矢板の引抜き 5) 含水比の調整																																																																																												
特殊部 D	設計図書及び監督員の指示に従って行うEランプ橋A1橋台における構造物掘削 1) 電動式バイプロハンマによる鋼矢板の打込み 2) 鋼矢板による土留めを用いた掘削、掘削土の積込み、本線盛土部への運搬、敷均し、締固め 3) 鋼矢板の存置 5) 鋼矢板の切断、スクラップ処理 6) 含水比の調整																																																																																												
単価表の項目	材料規格等	材料区分	調達地域	設置期間	摘要																																																																																								
特殊部 A	普通鋼矢板Ⅳ型	中古品	宮城県	-	存置																																																																																								
	普通鋼矢板Ⅳ型コーナー部材				存置																																																																																								
	普通鋼矢板Ⅲ型				存置																																																																																								
	普通鋼矢板Ⅲ型コーナー部材				存置																																																																																								
特殊部 B	普通鋼矢板Ⅲ型	中古品	宮城県	-	存置																																																																																								
特殊部 C	普通鋼矢板Ⅳ型	リース品	宮城県	3カ月	-																																																																																								
	普通鋼矢板Ⅳ型コーナー部材			3カ月	-																																																																																								
特殊部 D	普通鋼矢板Ⅲ型	中古品	宮城県	-	存置																																																																																								
	20	20																																																																																											

対象	誤	正	備考																																																																				
<p>特記仕様書 26-7-5 支払</p>	<p>26-7-4 施工 共通仕様書4-17-4「施工」に以下を追加する。 充填式大型コンクリートブロック積みの施工は表面パネル及び背面メッシュパネルをつなぎ材やアンカー筋にて確実に固定しなければならない。 また、設計図に示すコンクリート打継目位置毎に施工しなければならない。打継目の施工については「コンクリート施工管理要領」5-3打継目の規定に基づき施工するものとする。</p> <p>26-7-5 支払 共通仕様書4-17-6「支払」に以下を追加する。 (3) 充填式大型コンクリートブロック積みの支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、1㎡当たりの契約単価で行うものとする。 この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う、施工前のり面調査、組立式パネルの設置及び固定、裏込め砕石、吸出し防止材、透水防砂材、水抜パイプ、充填コンクリート等、充填式大型コンクリートブロック積みの施工に要する材料・労務・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除く全ての費用を含むものとする。</p> <table border="1" data-bbox="519 667 1439 808"> <thead> <tr> <th>単価表の項目</th> <th>検測の単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4-(14) コンクリートブロック積工</td> <td></td> </tr> <tr> <td>充填式大型コンクリートブロック積み(練) 控160cm</td> <td>㎡</td> </tr> <tr> <td>充填式大型コンクリートブロック積み(練) 控210cm</td> <td>㎡</td> </tr> <tr> <td>充填式大型コンクリートブロック積み(練) 控370cm</td> <td>㎡</td> </tr> </tbody> </table> <p>26-8 基礎工 26-8-1 定義 共通仕様書4-20-1「定義」に規定するコンクリート基礎の種別は、下表のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="468 940 1478 1031"> <thead> <tr> <th>単価表の項目</th> <th>区分内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート基礎工 A (F)</td> <td>コンクリートブロック積みの基礎工をいう。</td> </tr> <tr> <td>コンクリート基礎工 B (F)</td> <td>充填式大型コンクリートブロック積みの基礎工をいう。</td> </tr> </tbody> </table> <p>26-9 切土補強土工 26-9-1 施工 共通仕様書4-23-3「施工」に以下を追加する。 本工事の切土補強土工の施工方法については、逆巻施工とする。</p> <p>26-10 用排水構造物工 26-10-1 用排水溝及び用・排水管 共通仕様書5-4「用排水構造物工」に下表を追加する。</p> <p>(1) 種別</p> <table border="1" data-bbox="468 1297 1478 1669"> <thead> <tr> <th>単価表の項目</th> <th>内容</th> <th>設計図書に示す記号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>用・排水溝 GRC・0.30</td> <td>グラスファイバー製U型側溝 ふた</td> <td>GRC-0.30</td> </tr> <tr> <td>用・排水溝 RCV・1.00(A)</td> <td>現場打ち鉄筋コンクリートふた 1000×1200 t=25cm</td> <td>RCV-1.00(A)</td> </tr> <tr> <td>用・排水溝 Pst(G)・B・H</td> <td>スリット付プレキャストコンクリート側溝 (自由勾配側溝)</td> <td>Pst(G)-B-H</td> </tr> <tr> <td>用・排水溝 C-PBx・0.60・0.60 (F)</td> <td>プレキャストボックスカルバート</td> <td>C-PBx-0.60×0.60(F)</td> </tr> <tr> <td>用・排水溝 C-PBx・1.80・1.00</td> <td>プレキャストボックスカルバート</td> <td>C-PBx-1.80×1.00</td> </tr> </tbody> </table>	単価表の項目	検測の単位	4-(14) コンクリートブロック積工		充填式大型コンクリートブロック積み(練) 控160cm	㎡	充填式大型コンクリートブロック積み(練) 控210cm	㎡	充填式大型コンクリートブロック積み(練) 控370cm	㎡	単価表の項目	区分内容	コンクリート基礎工 A (F)	コンクリートブロック積みの基礎工をいう。	コンクリート基礎工 B (F)	充填式大型コンクリートブロック積みの基礎工をいう。	単価表の項目	内容	設計図書に示す記号	用・排水溝 GRC・0.30	グラスファイバー製U型側溝 ふた	GRC-0.30	用・排水溝 RCV・1.00(A)	現場打ち鉄筋コンクリートふた 1000×1200 t=25cm	RCV-1.00(A)	用・排水溝 Pst(G)・B・H	スリット付プレキャストコンクリート側溝 (自由勾配側溝)	Pst(G)-B-H	用・排水溝 C-PBx・0.60・0.60 (F)	プレキャストボックスカルバート	C-PBx-0.60×0.60(F)	用・排水溝 C-PBx・1.80・1.00	プレキャストボックスカルバート	C-PBx-1.80×1.00	<p>26-7-4 施工 共通仕様書4-17-4「施工」に以下を追加する。 充填式大型コンクリートブロック積みの施工は表面パネル及び背面メッシュパネルをつなぎ材やアンカー筋にて確実に固定しなければならない。 また、設計図に示すコンクリート打継目位置毎に施工しなければならない。打継目の施工については「コンクリート施工管理要領」5-3打継目の規定に基づき施工するものとする。</p> <p>26-7-5 支払 共通仕様書4-17-6「支払」に以下を追加する。 (3) 充填式大型コンクリートブロック積みの支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、1㎡当たりの契約単価で行うものとする。 この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う、施工前のり面調査、組立式パネルの設置及び固定、吸出し防止材、透水防砂材、水抜パイプ、充填コンクリート等、充填式大型コンクリートブロック積みの施工に要する材料・労務・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除く全ての費用を含むものとする。</p> <table border="1" data-bbox="1706 667 2626 808"> <thead> <tr> <th>単価表の項目</th> <th>検測の単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4-(14) コンクリートブロック積工</td> <td></td> </tr> <tr> <td>充填式大型コンクリートブロック積み(練) 控160cm</td> <td>㎡</td> </tr> <tr> <td>充填式大型コンクリートブロック積み(練) 控210cm</td> <td>㎡</td> </tr> <tr> <td>充填式大型コンクリートブロック積み(練) 控370cm</td> <td>㎡</td> </tr> </tbody> </table> <p>26-8 基礎工 26-8-1 定義 共通仕様書4-20-1「定義」に規定するコンクリート基礎の種別は、下表のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="1656 940 2665 1031"> <thead> <tr> <th>単価表の項目</th> <th>区分内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート基礎工 A (F)</td> <td>コンクリートブロック積みの基礎工をいう。</td> </tr> <tr> <td>コンクリート基礎工 B (F)</td> <td>充填式大型コンクリートブロック積みの基礎工をいう。</td> </tr> </tbody> </table> <p>26-9 切土補強土工 26-9-1 施工 共通仕様書4-23-3「施工」に以下を追加する。 本工事の切土補強土工の施工方法については、逆巻施工とする。</p> <p>26-10 用排水構造物工 26-10-1 用排水溝及び用・排水管 共通仕様書5-4「用排水構造物工」に下表を追加する。</p> <p>(1) 種別</p> <table border="1" data-bbox="1656 1297 2665 1669"> <thead> <tr> <th>単価表の項目</th> <th>内容</th> <th>設計図書に示す記号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>用・排水溝 GRC・0.30</td> <td>グラスファイバー製U型側溝 ふた</td> <td>GRC-0.30</td> </tr> <tr> <td>用・排水溝 RCV・1.00(A)</td> <td>現場打ち鉄筋コンクリートふた 1000×1200 t=25cm</td> <td>RCV-1.00(A)</td> </tr> <tr> <td>用・排水溝 Pst(G)・B・H</td> <td>スリット付プレキャストコンクリート側溝 (自由勾配側溝)</td> <td>Pst(G)-B-H</td> </tr> <tr> <td>用・排水溝 C-PBx・0.60・0.60 (F)</td> <td>プレキャストボックスカルバート</td> <td>C-PBx-0.60×0.60(F)</td> </tr> <tr> <td>用・排水溝 C-PBx・1.80・1.00</td> <td>プレキャストボックスカルバート</td> <td>C-PBx-1.80×1.00</td> </tr> </tbody> </table>	単価表の項目	検測の単位	4-(14) コンクリートブロック積工		充填式大型コンクリートブロック積み(練) 控160cm	㎡	充填式大型コンクリートブロック積み(練) 控210cm	㎡	充填式大型コンクリートブロック積み(練) 控370cm	㎡	単価表の項目	区分内容	コンクリート基礎工 A (F)	コンクリートブロック積みの基礎工をいう。	コンクリート基礎工 B (F)	充填式大型コンクリートブロック積みの基礎工をいう。	単価表の項目	内容	設計図書に示す記号	用・排水溝 GRC・0.30	グラスファイバー製U型側溝 ふた	GRC-0.30	用・排水溝 RCV・1.00(A)	現場打ち鉄筋コンクリートふた 1000×1200 t=25cm	RCV-1.00(A)	用・排水溝 Pst(G)・B・H	スリット付プレキャストコンクリート側溝 (自由勾配側溝)	Pst(G)-B-H	用・排水溝 C-PBx・0.60・0.60 (F)	プレキャストボックスカルバート	C-PBx-0.60×0.60(F)	用・排水溝 C-PBx・1.80・1.00	プレキャストボックスカルバート	C-PBx-1.80×1.00	<p>訂正</p>
単価表の項目	検測の単位																																																																						
4-(14) コンクリートブロック積工																																																																							
充填式大型コンクリートブロック積み(練) 控160cm	㎡																																																																						
充填式大型コンクリートブロック積み(練) 控210cm	㎡																																																																						
充填式大型コンクリートブロック積み(練) 控370cm	㎡																																																																						
単価表の項目	区分内容																																																																						
コンクリート基礎工 A (F)	コンクリートブロック積みの基礎工をいう。																																																																						
コンクリート基礎工 B (F)	充填式大型コンクリートブロック積みの基礎工をいう。																																																																						
単価表の項目	内容	設計図書に示す記号																																																																					
用・排水溝 GRC・0.30	グラスファイバー製U型側溝 ふた	GRC-0.30																																																																					
用・排水溝 RCV・1.00(A)	現場打ち鉄筋コンクリートふた 1000×1200 t=25cm	RCV-1.00(A)																																																																					
用・排水溝 Pst(G)・B・H	スリット付プレキャストコンクリート側溝 (自由勾配側溝)	Pst(G)-B-H																																																																					
用・排水溝 C-PBx・0.60・0.60 (F)	プレキャストボックスカルバート	C-PBx-0.60×0.60(F)																																																																					
用・排水溝 C-PBx・1.80・1.00	プレキャストボックスカルバート	C-PBx-1.80×1.00																																																																					
単価表の項目	検測の単位																																																																						
4-(14) コンクリートブロック積工																																																																							
充填式大型コンクリートブロック積み(練) 控160cm	㎡																																																																						
充填式大型コンクリートブロック積み(練) 控210cm	㎡																																																																						
充填式大型コンクリートブロック積み(練) 控370cm	㎡																																																																						
単価表の項目	区分内容																																																																						
コンクリート基礎工 A (F)	コンクリートブロック積みの基礎工をいう。																																																																						
コンクリート基礎工 B (F)	充填式大型コンクリートブロック積みの基礎工をいう。																																																																						
単価表の項目	内容	設計図書に示す記号																																																																					
用・排水溝 GRC・0.30	グラスファイバー製U型側溝 ふた	GRC-0.30																																																																					
用・排水溝 RCV・1.00(A)	現場打ち鉄筋コンクリートふた 1000×1200 t=25cm	RCV-1.00(A)																																																																					
用・排水溝 Pst(G)・B・H	スリット付プレキャストコンクリート側溝 (自由勾配側溝)	Pst(G)-B-H																																																																					
用・排水溝 C-PBx・0.60・0.60 (F)	プレキャストボックスカルバート	C-PBx-0.60×0.60(F)																																																																					
用・排水溝 C-PBx・1.80・1.00	プレキャストボックスカルバート	C-PBx-1.80×1.00																																																																					

対象	誤	正	備考																																						
<p>特記仕様書 26-22-2 種別</p>	<p>26-22 仮設落石防護柵 26-22-1 定義 仮設落石防護柵とは、現在供用している東北自動車道本線の走行車線及び路肩へ設計図書及び監督員の指示に従って仮設落石防護柵を設置することをいう。</p> <p>26-22-2 種別 仮設落石防護柵の単価表の項目の種別は、下表のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="468 424 1484 1066"> <thead> <tr> <th>単価表の項目</th> <th>区分内容</th> <th>設置期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設置</td> <td>1) 仮設落石防護柵の設置（整備費を含む） 2) 耐候性大型土のうの製作（STA. 485+50上り線付近及びSTA. 486+40下り線付近の掘削土にて製作） 3) 耐候性大型土のうの運搬及び覆工板への設置</td> <td rowspan="3">-</td> </tr> <tr> <td>移動</td> <td>1) 設置箇所より仮設落石防護柵を撤去し、後施工区間（STA. 485+80～486+40）への移動</td> </tr> <tr> <td>撤去再設置</td> <td>1) 後施工区間（STA. 485+80～486+40）の仮設落石防護柵を撤去し、撤去ヤード（上り線側STA. 485+40～485+80付近ループ内）への仮置き 2) 上部工工事において木戸2号橋の中央径間及び測径間撤去後に撤去ヤードから木戸2号橋付近走行車線（上下線）への再設置 3) 再設置した仮設落石防護柵を撤去し、撤去ヤードへの仮置き 4) 上部工工事において後沢橋の中央径間及び測径間撤去後に撤去ヤードから後沢橋付近走行車線（上下線）への再設置</td> </tr> <tr> <td>賃料A</td> <td>1) 仮設落石防護柵の供用月当たり賃料（移動数量を除く賃料期間）</td> <td>13カ月</td> </tr> <tr> <td>賃料B</td> <td>1) 仮設落石防護柵の供用月当たり賃料（移動及び高速道路跨道橋下部工撤去完了までの賃料期間）</td> <td>29カ月</td> </tr> <tr> <td>撤去</td> <td>1) 仮設落石防護柵撤去及び返却 2) 対候性大型土のうの撤去、解体、製作箇所での中詰め土のはねつけ</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>上表における設置期間とは、本工事による設置開始から、使用後、撤去完了までの期間をいう。 なお、受注者の責によらず、仮設落石防護柵の設置期間に大幅な変更が生じた場合は、これに要する費用について監督員と協議し定めるものとする。</p> <p>26-22-3 材料 仮設落石防護柵の材料は、<b>対候性大型土のうを除き全てリース品とし</b>、設計図書及び監督員の指示によるものとする。</p> <p>26-22-4 施工 (1) 仮設落石防護柵の設置は、設計図書及び監督員の指示に従い正しい位置に配置するものとする。 (2) 仮設落石防護柵の固定は、計図書及び監督員の指示に従い、発生材により製作された大型土のうを覆工板上面へ設置する。設置に際しては既設舗装面に悪影響を及ぼさないようしなければならない。</p> <p>26-22-5 数量の検測 仮設落石防護柵設置の数量の検測は、設計数量（m）とする。 仮設落石防護柵移動の数量の検測は、設計数量（m）とする。 仮設落石防護柵撤去再設置の数量の検測は、設計数量（m）とする。 仮設落石防護柵賃料A・Bの数量の検測は、設計数量（m・月）とする。 仮設落石防護柵撤去の数量の検測は、設計数量（m）とする。</p>	単価表の項目	区分内容	設置期間	設置	1) 仮設落石防護柵の設置（整備費を含む） 2) 耐候性大型土のうの製作（STA. 485+50上り線付近及びSTA. 486+40下り線付近の掘削土にて製作） 3) 耐候性大型土のうの運搬及び覆工板への設置	-	移動	1) 設置箇所より仮設落石防護柵を撤去し、後施工区間（STA. 485+80～486+40）への移動	撤去再設置	1) 後施工区間（STA. 485+80～486+40）の仮設落石防護柵を撤去し、撤去ヤード（上り線側STA. 485+40～485+80付近ループ内）への仮置き 2) 上部工工事において木戸2号橋の中央径間及び測径間撤去後に撤去ヤードから木戸2号橋付近走行車線（上下線）への再設置 3) 再設置した仮設落石防護柵を撤去し、撤去ヤードへの仮置き 4) 上部工工事において後沢橋の中央径間及び測径間撤去後に撤去ヤードから後沢橋付近走行車線（上下線）への再設置	賃料A	1) 仮設落石防護柵の供用月当たり賃料（移動数量を除く賃料期間）	13カ月	賃料B	1) 仮設落石防護柵の供用月当たり賃料（移動及び高速道路跨道橋下部工撤去完了までの賃料期間）	29カ月	撤去	1) 仮設落石防護柵撤去及び返却 2) 対候性大型土のうの撤去、解体、製作箇所での中詰め土のはねつけ	-	<p>26-22 仮設落石防護柵 26-22-1 定義 仮設落石防護柵とは、現在供用している東北自動車道本線の走行車線及び路肩へ設計図書及び監督員の指示に従って仮設落石防護柵を設置することをいう。</p> <p>26-22-2 種別 仮設落石防護柵の単価表の項目の種別は、下表のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="1656 424 2671 1150"> <thead> <tr> <th>単価表の項目</th> <th>区分内容</th> <th>設置期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設置</td> <td>1) 仮設落石防護柵の設置（整備費を含む） 2) 耐候性大型土のうの製作（STA. 485+50上り線付近及びSTA. 486+40下り線付近の掘削土にて製作） 3) 耐候性大型土のうの運搬及び覆工板への設置 4) <b>リース材を除く材料費</b></td> <td rowspan="3">-</td> </tr> <tr> <td>移動</td> <td>1) 設置箇所より仮設落石防護柵を撤去し、後施工区間（STA. 485+80～486+40）への移動</td> </tr> <tr> <td>撤去再設置</td> <td>1) 後施工区間（STA. 485+80～486+40）の仮設落石防護柵を撤去し、撤去ヤード（上り線側STA. 485+40～485+80付近ループ内）への仮置き 2) 上部工工事において木戸2号橋の中央径間及び測径間撤去後に撤去ヤードから木戸2号橋付近走行車線（上下線）への再設置 3) 再設置した仮設落石防護柵を撤去し、撤去ヤードへの仮置き 4) 上部工工事において後沢橋の中央径間及び測径間撤去後に撤去ヤードから後沢橋付近走行車線（上下線）への再設置</td> </tr> <tr> <td>賃料A</td> <td>1) 仮設落石防護柵のうち支柱（H-200×200・ガイドポスト）、敷桁、壁材、固定金具類（固定金具・CSP-350用）、覆工板供用月当たり賃料（移動数量を除く賃料期間）</td> <td>13カ月</td> </tr> <tr> <td>賃料B</td> <td>1) 仮設落石防護柵のうち支柱（H-200×200・ガイドポスト）、敷桁、壁材、固定金具類（固定金具・CSP-350用）、覆工板の供用月当たり賃料（移動及び高速道路跨道橋下部工撤去完了までの賃料期間）</td> <td>28カ月</td> </tr> <tr> <td>撤去</td> <td>1) 仮設落石防護柵撤去及び返却 2) 対候性大型土のうの撤去、解体、製作箇所での中詰め土のはねつけ</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>上表における設置期間とは、本工事による設置開始から、使用後、撤去完了までの期間をいう。 なお、受注者の責によらず、仮設落石防護柵の設置期間に大幅な変更が生じた場合は、これに要する費用について監督員と協議し定めるものとする。</p> <p>26-22-3 材料 仮設落石防護柵の材料は、設計図書及び監督員の指示によるものとする。</p> <p>26-22-4 施工 (1) 仮設落石防護柵の設置は、設計図書及び監督員の指示に従い正しい位置に配置するものとする。 (2) 仮設落石防護柵の固定は、計図書及び監督員の指示に従い、発生材により製作された大型土のうを覆工板上面へ設置する。設置に際しては既設舗装面に悪影響を及ぼさないようしなければならない。</p> <p>26-22-5 数量の検測 仮設落石防護柵設置の数量の検測は、設計数量（m）とする。 仮設落石防護柵移動の数量の検測は、設計数量（m）とする。 仮設落石防護柵撤去再設置の数量の検測は、設計数量（m）とする。 仮設落石防護柵賃料A・Bの数量の検測は、設計数量（m・月）とする。 仮設落石防護柵撤去の数量の検測は、設計数量（m）とする。</p>	単価表の項目	区分内容	設置期間	設置	1) 仮設落石防護柵の設置（整備費を含む） 2) 耐候性大型土のうの製作（STA. 485+50上り線付近及びSTA. 486+40下り線付近の掘削土にて製作） 3) 耐候性大型土のうの運搬及び覆工板への設置 4) <b>リース材を除く材料費</b>	-	移動	1) 設置箇所より仮設落石防護柵を撤去し、後施工区間（STA. 485+80～486+40）への移動	撤去再設置	1) 後施工区間（STA. 485+80～486+40）の仮設落石防護柵を撤去し、撤去ヤード（上り線側STA. 485+40～485+80付近ループ内）への仮置き 2) 上部工工事において木戸2号橋の中央径間及び測径間撤去後に撤去ヤードから木戸2号橋付近走行車線（上下線）への再設置 3) 再設置した仮設落石防護柵を撤去し、撤去ヤードへの仮置き 4) 上部工工事において後沢橋の中央径間及び測径間撤去後に撤去ヤードから後沢橋付近走行車線（上下線）への再設置	賃料A	1) 仮設落石防護柵のうち支柱（H-200×200・ガイドポスト）、敷桁、壁材、固定金具類（固定金具・CSP-350用）、覆工板供用月当たり賃料（移動数量を除く賃料期間）	13カ月	賃料B	1) 仮設落石防護柵のうち支柱（H-200×200・ガイドポスト）、敷桁、壁材、固定金具類（固定金具・CSP-350用）、覆工板の供用月当たり賃料（移動及び高速道路跨道橋下部工撤去完了までの賃料期間）	28カ月	撤去	1) 仮設落石防護柵撤去及び返却 2) 対候性大型土のうの撤去、解体、製作箇所での中詰め土のはねつけ	-	<p>訂正</p>
単価表の項目	区分内容	設置期間																																							
設置	1) 仮設落石防護柵の設置（整備費を含む） 2) 耐候性大型土のうの製作（STA. 485+50上り線付近及びSTA. 486+40下り線付近の掘削土にて製作） 3) 耐候性大型土のうの運搬及び覆工板への設置	-																																							
移動	1) 設置箇所より仮設落石防護柵を撤去し、後施工区間（STA. 485+80～486+40）への移動																																								
撤去再設置	1) 後施工区間（STA. 485+80～486+40）の仮設落石防護柵を撤去し、撤去ヤード（上り線側STA. 485+40～485+80付近ループ内）への仮置き 2) 上部工工事において木戸2号橋の中央径間及び測径間撤去後に撤去ヤードから木戸2号橋付近走行車線（上下線）への再設置 3) 再設置した仮設落石防護柵を撤去し、撤去ヤードへの仮置き 4) 上部工工事において後沢橋の中央径間及び測径間撤去後に撤去ヤードから後沢橋付近走行車線（上下線）への再設置																																								
賃料A	1) 仮設落石防護柵の供用月当たり賃料（移動数量を除く賃料期間）	13カ月																																							
賃料B	1) 仮設落石防護柵の供用月当たり賃料（移動及び高速道路跨道橋下部工撤去完了までの賃料期間）	29カ月																																							
撤去	1) 仮設落石防護柵撤去及び返却 2) 対候性大型土のうの撤去、解体、製作箇所での中詰め土のはねつけ	-																																							
単価表の項目	区分内容	設置期間																																							
設置	1) 仮設落石防護柵の設置（整備費を含む） 2) 耐候性大型土のうの製作（STA. 485+50上り線付近及びSTA. 486+40下り線付近の掘削土にて製作） 3) 耐候性大型土のうの運搬及び覆工板への設置 4) <b>リース材を除く材料費</b>	-																																							
移動	1) 設置箇所より仮設落石防護柵を撤去し、後施工区間（STA. 485+80～486+40）への移動																																								
撤去再設置	1) 後施工区間（STA. 485+80～486+40）の仮設落石防護柵を撤去し、撤去ヤード（上り線側STA. 485+40～485+80付近ループ内）への仮置き 2) 上部工工事において木戸2号橋の中央径間及び測径間撤去後に撤去ヤードから木戸2号橋付近走行車線（上下線）への再設置 3) 再設置した仮設落石防護柵を撤去し、撤去ヤードへの仮置き 4) 上部工工事において後沢橋の中央径間及び測径間撤去後に撤去ヤードから後沢橋付近走行車線（上下線）への再設置																																								
賃料A	1) 仮設落石防護柵のうち支柱（H-200×200・ガイドポスト）、敷桁、壁材、固定金具類（固定金具・CSP-350用）、覆工板供用月当たり賃料（移動数量を除く賃料期間）	13カ月																																							
賃料B	1) 仮設落石防護柵のうち支柱（H-200×200・ガイドポスト）、敷桁、壁材、固定金具類（固定金具・CSP-350用）、覆工板の供用月当たり賃料（移動及び高速道路跨道橋下部工撤去完了までの賃料期間）	28カ月																																							
撤去	1) 仮設落石防護柵撤去及び返却 2) 対候性大型土のうの撤去、解体、製作箇所での中詰め土のはねつけ	-																																							
	30	30																																							

対象	誤				正				備考
割掛対象表参考内訳書 【仮設備工事費】 支保工費	割掛対象表 の項目名称	工事の内容	数量内訳 (参考)	図面	割掛対象表 の項目名称	工事の内容	数量内訳 (参考)	図面	訂正
	足場工費 C 橋梁および一般構造物の施工に必要な足場工に要する費用をいう。	橋梁および一般構造物の施工に必要な足場工に要する費用をいう。	切土補強土工 1,969.0空m <sup>3</sup>		足場工費 C 橋梁および一般構造物の施工に必要な足場工に要する費用をいう。	橋梁および一般構造物の施工に必要な足場工に要する費用をいう。	切土補強土工 1,969.0空m <sup>3</sup>		
	支保工費	コンクリート構造物施工時、所定の形状のコンクリート構造物に仕上げるための、仮設の支保構造物に要する費用をいう。	<b>築館24</b> 載荷荷重:1.4t/m <sup>2</sup> 桁下高さ:2.9m <b>築館24水路部</b> 載荷荷重:1.2t/m <sup>2</sup> 桁下高さ:0.9m <b>築館24-1</b> 載荷荷重:2.0t/m <sup>2</sup> 桁下高さ:3.7m <b>築館24-1水路部</b> 載荷荷重:1.6t/m <sup>2</sup> 桁下高さ:0.9m <b>Eランプ橋 (下部工)</b> <b>A1橋台</b> 載荷荷重:1.7~4.2t/m <sup>2</sup> 桁下高さ:2.8~7.8m <b>A2橋台</b> 載荷荷重:1.7~4.4t/m <sup>2</sup> 桁下高さ:2.8~7.6m <b>後沢橋 (下部工)</b> <b>A1橋台</b> 載荷荷重:2.8~3.0t/m <sup>2</sup> 桁下高さ:4.5m <b>A2橋台</b> 載荷荷重:2.8~3.0t/m <sup>2</sup> 桁下高さ:4.5m		支保工費	コンクリート構造物施工時、所定の形状のコンクリート構造物に仕上げるための、仮設の支保構造物に要する費用をいう。	<b>【くさび結合支保工】</b> <b>築館24</b> 載荷荷重:1.4t/m <sup>2</sup> 桁下高さ:2.9m 存置日数:47日 55.7空m <sup>3</sup> <b>築館24水路部</b> 載荷荷重:1.2t/m <sup>2</sup> 桁下高さ:0.9m 存置日数:47日 15.8空m <sup>3</sup> <b>築館24-1</b> 載荷荷重:2.0t/m <sup>2</sup> 桁下高さ:3.7m 存置日数:47日 203.1空m <sup>3</sup> <b>築館24-1水路部</b> 載荷荷重:1.6t/m <sup>2</sup> 桁下高さ:0.9m 存置日数:47日 46.0空m <sup>3</sup> <b>Eランプ橋 (下部工)</b> <b>A1橋台</b> 載荷荷重:1.7~4.2t/m <sup>2</sup> 桁下高さ:2.8~7.8m 存置日数:47日 108.0空m <sup>3</sup> <b>A2橋台</b> 載荷荷重:1.7~4.4t/m <sup>2</sup> 桁下高さ:2.8~7.6m 存置日数:47日 108.7空m <sup>3</sup> <b>後沢橋 (下部工)</b> <b>A1橋台</b> 載荷荷重:2.8~3.0t/m <sup>2</sup> 桁下高さ:4.5m 存置日数:47日 15.1空m <sup>3</sup> <b>A2橋台</b> 載荷荷重:2.8~3.0t/m <sup>2</sup> 桁下高さ:4.5m 存置日数:47日 15.1空m <sup>3</sup>		
	<b>【雑工事費】</b>				<b>【雑工事費】</b>				
	割掛対象表 の項目名称	工事の内容	数量内訳 (参考)	図面	割掛対象表 の項目名称	工事の内容	数量内訳 (参考)	図面	
	切土部施工基面の整形費	共通仕様書 2-6-5(6)の規定を満足するよう、上部路床面の不陸整正に要する費用をいう。	切土部施工基面の整形(土砂) - 9,549.3 m <sup>3</sup>		切土部施工基面の整形費	共通仕様書 2-6-5(6)の規定を満足するよう、上部路床面の不陸整正に要する費用をいう。	切土部施工基面の整形(土砂) - 9,549.3 m <sup>3</sup>		
	のり面仕上げ費	共通仕様書2-6-5(8)及び2-7-5(6)に規定する作業に要する費用をいう。	切土のり面仕上げ(土砂) - 17,991.5m <sup>3</sup> 盛土のり面仕上げ - 13,702.4m <sup>3</sup>		のり面仕上げ費	共通仕様書2-6-5(8)及び2-7-5(6)に規定する作業に要する費用をいう。	切土のり面仕上げ(土砂) - 17,991.5m <sup>3</sup> 盛土のり面仕上げ - 13,702.4m <sup>3</sup>		
	構造物水抜穴費	コンクリート構造物に設置する水抜穴に要する費用をいう。	VPφ75 - 29.6m Eランプ橋 - 20.0m 後沢橋 - 9.6m VPφ50 - 11.1m 築館24 - 1.4m 築館24-1 - 8.4m 築館25 - 1.3m	○	構造物水抜穴費	コンクリート構造物に設置する水抜穴に要する費用をいう。	VPφ75 - 29.6m Eランプ橋 - 20.0m 後沢橋 - 9.6m VPφ50 - 11.1m 築館24 - 1.4m 築館24-1 - 8.4m 築館25 - 1.3m	○	
	目地材費	コンクリート構造物の継目に設置する目地材に要する費用をいう。	目地板 (t=1cm) - 26.9m <sup>2</sup> 多数アンカー工 Dランプ - 8.3m <sup>2</sup> 多数アンカー工 EランプA1R - 6.9m <sup>2</sup> 多数アンカー工 EランプA2R - 10.6m <sup>2</sup> 多数アンカー工 EランプA2L - 1.1m <sup>2</sup>	○					

対象  
 金抜設計書  
 番号 138  
 8-(3) 鉄筋  
 Y

誤

単 価 表

番号	項目番号	項 目	数量	単位	単 価	金 額	摘 要
133	8-(1)	コンクリート D1-1	129	m <sup>3</sup>			
134	8-(2)	型わく C	2,575	m <sup>2</sup>			
135	8-(2)	型わく D	74	m <sup>2</sup>			
136	8-(3)	鉄筋 A	165.87	t			
137	8-(3)	鉄筋 C	12.16	t			
138	8-(3)	鉄筋 Y	113.45	t			
139	15-(1)	防護柵 Gr-Am-Mo	100	m			
140	16-(10)	土工部管路工 FEP管φ200	680	m			
141	16-(10)	土工部管路工 FP管φ40	2,340	m			
142	16-(23)	標識柱撤去工 標識柱	1	基			
143	16-(24)	標識板撤去工 反射式 A	4	m <sup>2</sup>			
144	17-(31)	はく落防止対策工 A	88	m <sup>2</sup>			

正

単 価 表

番号	項目番号	項 目	数量	単位	単 価	金 額	摘 要
133	8-(1)	コンクリート D1-1	129	m <sup>3</sup>			
134	8-(2)	型わく C	2,575	m <sup>2</sup>			
135	8-(2)	型わく D	74	m <sup>2</sup>			
136	8-(3)	鉄筋 A	165.87	t			
137	8-(3)	鉄筋 C	12.16	t			
138	8-(3)	鉄筋 Y	113.74	t			
139	15-(1)	防護柵 Gr-Am-Mo	100	m			
140	16-(10)	土工部管路工 FEP管φ200	680	m			
141	16-(10)	土工部管路工 FP管φ40	2,340	m			
142	16-(23)	標識柱撤去工 標識柱	1	基			
143	16-(24)	標識板撤去工 反射式 A	4	m <sup>2</sup>			
144	17-(31)	はく落防止対策工 A	88	m <sup>2</sup>			

備考

訂正

数量明細表  
番号 138  
8-(3) 鉄筋  
Y

対象

誤

数量明細表

工事名)東北自動車道 栗原インターチェンジ工事

番号	名称および測点	区分	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144			
			8-(1)			8-(2)			8-(3)			15-(1)	16-(10)		16-(23)	16-(24)	17-(31)
			コンクリート			型枠			鉄筋			防護欄	土工部管路工	標識柱撤去工	標識板撤去工	はく落防止対策工	
			D1-1	C	D	A	C	Y	Gr-Am-M o	FEPP管φ20 O	FP管φ40	標識柱	反射式 A	A			
単位	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	t	t	t	m	m	m	基	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>					
1	本線土工		3.6														
2	Eランプ橋(下部工)		36.2	1,289.4	10.8	124.429	8,709	97,300									
3	後設橋(下部工)		6.6	373.5	5.0	14.572	3,451	16,152									
4	側架工		77.7	825.3	57.9	26,866								87.7			
5	擁壁工			87.2													
6	雑工		5.1				100.0	680.0	2,340.0	1.0	3.8						
	総合計		129.2	2,575.4	73.7	165,867	12,163	113,452	100.0	680.0	2,340.0	1.0	3.8	87.7			

正

備考

訂正

数量明細表

工事名)東北自動車道 栗原インターチェンジ工事

番号	名称および測点	区分	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144			
			8-(1)			8-(2)			8-(3)			15-(1)	16-(10)		16-(23)	16-(24)	17-(31)
			コンクリート			型枠			鉄筋			防護欄	土工部管路工	標識柱撤去工	標識板撤去工	はく落防止対策工	
			D1-1	C	D	A	C	Y	Gr-Am-M o	FEPP管φ20 O	FP管φ40	標識柱	反射式 A	A			
単位	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	t	t	t	m	m	m	基	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>					
1	本線土工		3.6														
2	Eランプ橋(下部工)		36.2	1,289.4	10.8	124.429	8,709	97,300									
3	後設橋(下部工)		6.6	373.5	5.0	14.572	3,451	16,140									
4	側架工		77.7	825.3	57.9	26,866								87.7			
5	擁壁工			87.2													
6	雑工		5.1				100.0	680.0	2,340.0	1.0	3.8						
	総合計		129.2	2,575.4	73.7	165,867	12,163	113,740	100.0	680.0	2,340.0	1.0	3.8	87.7			

設計図  
後沢橋(下部工)  
数量総括表

対象

誤

正

備考

訂正

後沢橋(下部工) 数量総括表

下部工施工分							
項目	種別	単位	A1標準	A2標準	合計	備考	
構造物躯体	普通部C	m <sup>3</sup>	668.7	-	668.7		
	普通部D	m <sup>3</sup>	-	686.1	686.1		
構造物裏込め工	裏込めA	m <sup>3</sup>	213.7	204.0	417.7	流用土	
	裏込めB	m <sup>3</sup>	6.5	6.5	13.0		
地下排水工	Du-Pφφ.15・φ.50・φ.50	m	5.5	5.5	11.0		
基礎杭	橋脚打ちコンクリート杭(標準断面、φ1000)	m	80.0	84.0	174.0		
	A1-3	m <sup>2</sup>	78.1	78.0	156.0	橋脚 (φ1000mm)	
コンクリート	B2-1	m <sup>3</sup>	43.0	43.0	86.0	アーチング (φ1000mm)	
	D1-1	m <sup>3</sup>	3.3	3.3	6.6	用土コンクリート (φ1000mm)	
	C	m <sup>2</sup>	188.4	187.1	375.5		
型枠	D	m <sup>2</sup>	2.5	2.5	5.0		
	D13	t	0.024	0.024	0.048		
鉄筋	A	D16-D25	t	7.206	7.318	14.524	S3345
		小計	t	7.206	7.318	14.524	
	C	D16-D25	t	1.727	1.727	3.454	S3345
		小計	t	1.727	1.727	3.454	
	Y	D13	t	0.102	0.114	0.216	
		D16-D25	t	3.360	6.408	9.768	S3345
D29-D32	t	6.168	0.000	6.168			
小計	t	9.528	6.522	16.152			

算入品目	
鉄筋	標準仕様
型枠	標準仕様
コンクリート	標準仕様
基礎杭	標準仕様
地下排水工	標準仕様
裏込め工	標準仕様
構造物躯体	標準仕様

後沢橋(下部工) 数量総括表

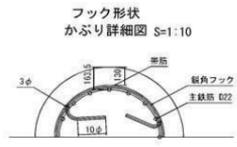
下部工施工分							
項目	種別	単位	A1標準	A2標準	合計	備考	
構造物躯体	普通部C	m <sup>3</sup>	668.7	-	668.7		
	普通部D	m <sup>3</sup>	-	686.1	686.1		
構造物裏込め工	裏込めA	m <sup>3</sup>	213.7	204.0	417.7	流用土	
	裏込めB	m <sup>3</sup>	6.5	6.5	13.0		
地下排水工	Du-Pφφ.15・φ.50・φ.50	m	5.5	5.5	11.0		
基礎杭	橋脚打ちコンクリート杭(標準断面、φ1000)	m	80.0	84.0	174.0		
	A1-3	m <sup>2</sup>	78.1	78.0	156.0	橋脚 (φ1000mm)	
コンクリート	B2-1	m <sup>3</sup>	43.0	43.0	86.0	アーチング (φ1000mm)	
	D1-1	m <sup>3</sup>	3.3	3.3	6.6	用土コンクリート (φ1000mm)	
	C	m <sup>2</sup>	188.4	187.1	375.5		
型枠	D	m <sup>2</sup>	2.5	2.5	5.0		
	D13	t	0.024	0.024	0.048		
鉄筋	A	D16-D25	t	7.206	7.318	14.524	S3345
		小計	t	7.206	7.318	14.524	
	C	D16-D25	t	1.727	1.727	3.454	S3345
		小計	t	1.727	1.727	3.454	
	Y	D13	t	0.102	0.114	0.216	
		D16-D25	t	3.360	6.558	9.918	S3345
D29-D32	t	6.312	0.000	6.312			
小計	t	9.774	6.666	16.440			

算入品目	
鉄筋	標準仕様
型枠	標準仕様
コンクリート	標準仕様
基礎杭	標準仕様
地下排水工	標準仕様
裏込め工	標準仕様
構造物躯体	標準仕様

設計図  
後沢橋(下部工)  
A1橋台場所打ち杭  
配筋図(その2)

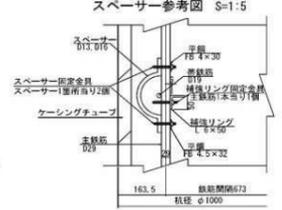
対象 誤

後沢橋(下部工) A1橋台場所打ち杭配筋図(その2)



種別	径 (mm)	長さ (m)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	備考
P1	D29	6500	8	5.04	35.32	282	1
P1	D29	11500	8	5.04	57.36	464	1
P2	D29	7500	8	5.04	37.80	302	1
P2	D29	13000	8	5.04	67.32	538	1
S1	D13	1180	10	0.995	1.17	12	手島橋
S2	D16	310	4	1.56	0.48	2	手島橋
S3	D13	310	16	0.995	0.31	5	手島橋
合計						558	

種別	径 (mm)	長さ (m)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	備考
合計						558	



種別	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	備考	
補強リング固定金具	L 6×50	2004	5	4.43	8.88	44	補強リング(D29用)
Uボルト(D29用)		4				主鉄筋と補強リングの固定	
スベークー固定金具	Fg 4.5×32	80	40	1.13	0.090	4	Uボルト固定用
Uボルト(D29用)		40				主鉄筋とスベークーの固定	

注記  
1) スベークーは、1段毎に45°ずらして設置すること。  
2) 鉄合手鋼筋の手部は、同一箇所に乗らないように、手島状に配置する。  
3) 鉄筋の組み立てにおいては、組み立て上の形状保持のための措置は行わないこと。  
4) 形状補強鉄筋は形状保持金具等で主鉄筋と壁面に固定すること。

設計者	藤田 隆雄
校核者	藤田 隆雄
承認者	藤田 隆雄
作成日	2023/07/27
図面番号	23/27

正

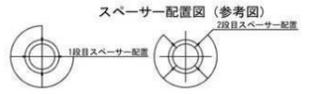
備考  
訂正

後沢橋(下部工) A1橋台場所打ち杭配筋図(その2)



種別	径 (mm)	長さ (m)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	備考
P1	D29	7000	8	5.04	35.32	282	1
P1	D29	10500	8	5.04	53.37	427	1
P2	D29	5500	8	5.04	37.80	302	1
P2	D29	11000	8	5.04	67.32	538	1
S1	D13	1180	10	0.995	1.17	12	手島橋
S2	D16	310	4	1.56	0.48	2	手島橋
S3	D13	310	16	0.995	0.31	5	手島橋
合計						558	

種別	径 (mm)	長さ (m)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	備考
合計						558	



種別	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	備考	
補強リング固定金具	L 6×50	2004	5	4.43	8.88	44	補強リング(D29用)
Uボルト(D29用)		4				主鉄筋と補強リングの固定	
スベークー固定金具	Fg 4.5×32	80	40	1.13	0.090	4	Uボルト固定用
Uボルト(D29用)		40				主鉄筋とスベークーの固定	

注記  
1) スベークーは、1段毎に45°ずらして設置すること。  
2) 鉄合手鋼筋の手部は、同一箇所に乗らないように、手島状に配置する。  
3) 鉄筋の組み立てにおいては、組み立て上の形状保持のための措置は行わないこと。  
4) 形状補強鉄筋は形状保持金具等で主鉄筋と壁面に固定すること。

設計者	藤田 隆雄
校核者	藤田 隆雄
承認者	藤田 隆雄
作成日	2023/07/27
図面番号	23/27

設計図  
後沢橋(下部工)  
A2橋台場所打ち杭  
配筋図(その2)

対象

誤

正

備考

訂正

後沢橋(下部工) A2橋台場所打ち杭配筋図(その2)

25 / 27

**フック形状  
かぶり詳細図 S=1:10**

**補強リング固定金具概要図  
参考図: 補強リング固定用Uボルト S=1:2**

**鉄筋表**

種別	径 (mm)	長さ (m)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	備考
P1	D22	7000	8	3.04	19.76	158	
P1	D22	9500	8	3.04	28.88	231	
P2	D22	8500	8	3.04	22.80	182	
合計							571

**鉄筋集計表**

径	SD345 (kg)
D10	1本当り1本 (6本)
D13	19
D16	2
D19	495
D22	571
D25	0
D29	0
D32	0
合計	1087

**材料表(杭1本当り)**

種別	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	備考
補強リング固定金具	2057	5	4.43	9.11	46	補強リング(D22用)
Uボルト(D22用)	—	56	—	—	—	主鉄筋と補強リングの固定
スペーサー固定金具	80	40	1.13	0.090	4	Uボルト固定用
Uボルト(D22用)	—	40	—	—	—	主鉄筋とスペーサーの固定

**スペーサー配置図(参考図)**

注記  
1) スペーサーは、1段毎に45°ずらして設置すること。  
2) 場合によっては、同一箇所にも重ねて設置すること。手島状に設置する。  
3) 鉄筋の組み立てにおいては、組み立て上の形状保持のための措置は行わないこと。  
4) 形状補強筋は形状保持金物等で主鉄筋と堅固に固定すること。

後沢橋(下部工) A2橋台場所打ち杭配筋図(その2)

25 / 27

**フック形状  
かぶり詳細図 S=1:10**

**補強リング固定金具概要図  
参考図: 補強リング固定用Uボルト S=1:2**

**鉄筋表**

種別	径 (mm)	長さ (m)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	備考
P1	D22	7000	8	3.04	19.76	158	
P1	D22	9500	8	3.04	28.88	231	
P2	D22	8500	8	3.04	22.84	207	
合計							596

**鉄筋集計表**

径	SD345 (kg)
D10	1本当り1本 (6本)
D13	18
D16	2
D19	495
D22	596
D25	0
D29	0
D32	0
合計	1111

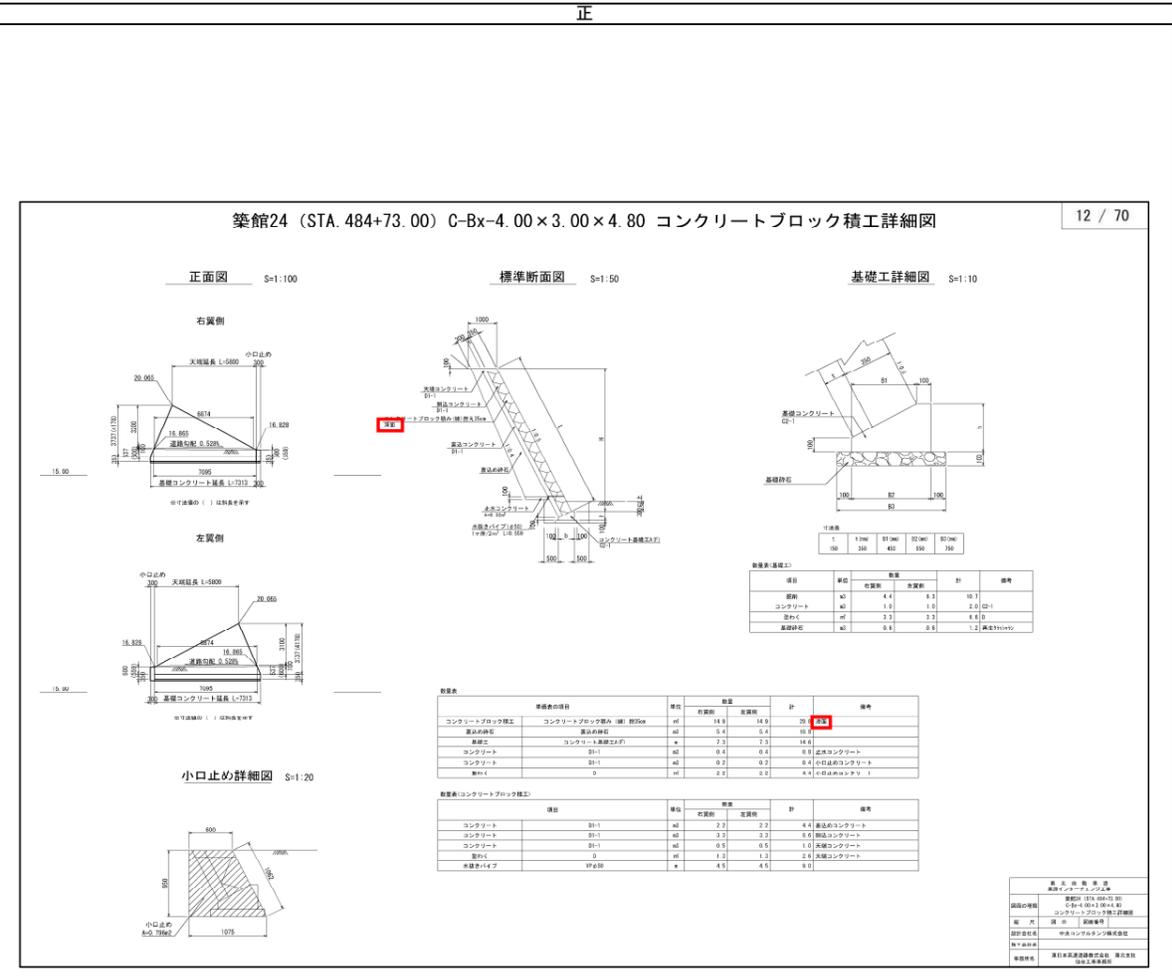
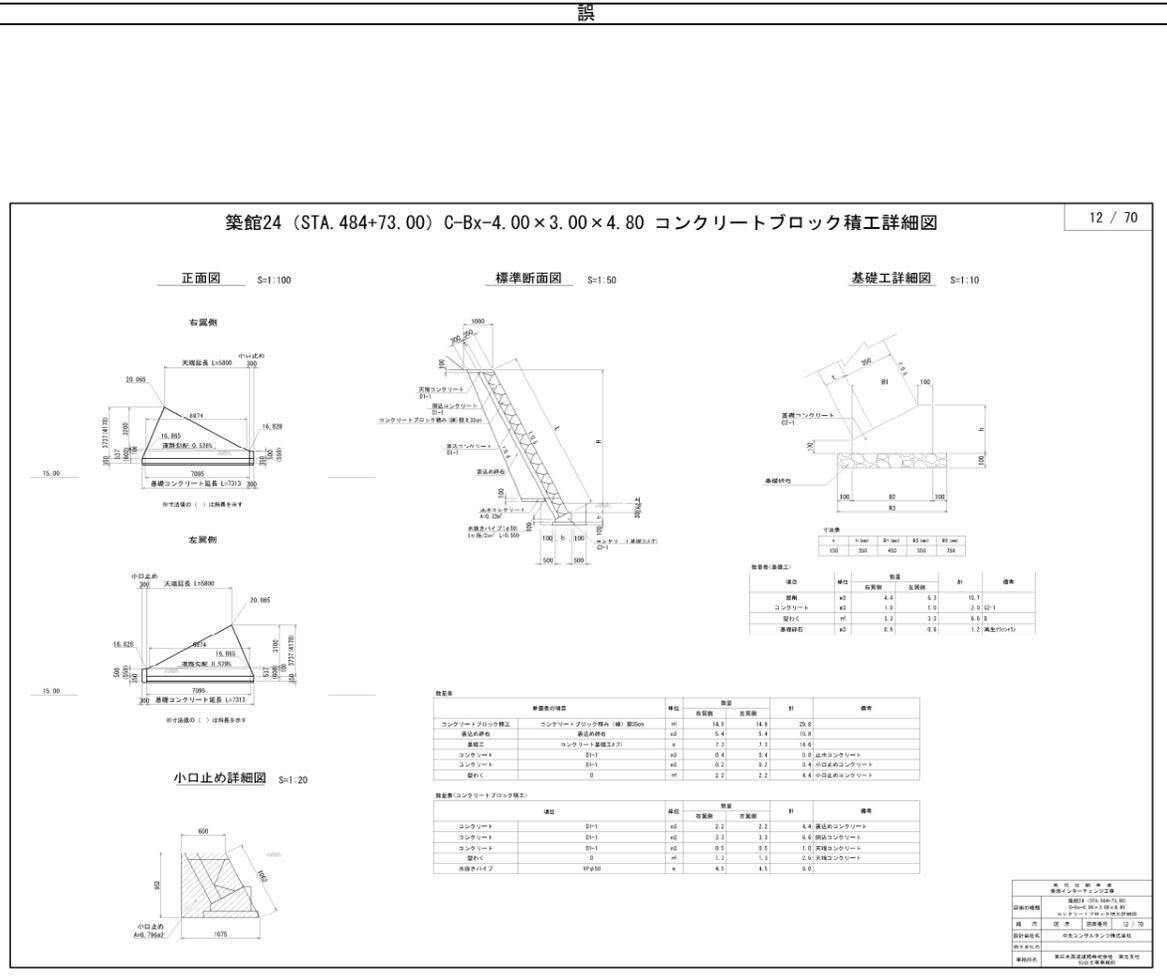
**材料表(杭1本当り)**

種別	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	備考
補強リング固定金具	2057	5	4.43	9.11	46	補強リング(D22用)
Uボルト(D22用)	—	56	—	—	—	主鉄筋と補強リングの固定
スペーサー固定金具	80	40	1.13	0.090	4	Uボルト固定用
Uボルト(D22用)	—	40	—	—	—	主鉄筋とスペーサーの固定

**スペーサー配置図(参考図)**

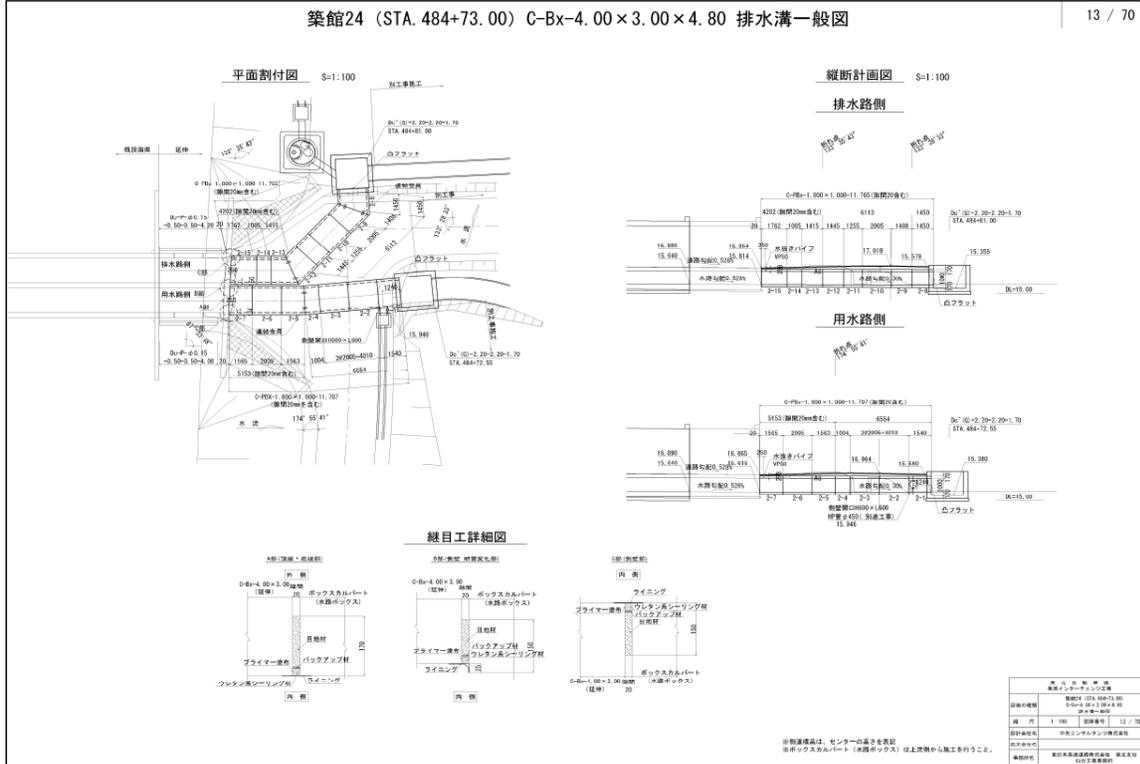
注記  
1) スペーサーは、1段毎に45°ずらして設置すること。  
2) 場合によっては、同一箇所にも重ねて設置すること。手島状に設置する。  
3) 鉄筋の組み立てにおいては、組み立て上の形状保持のための措置は行わないこと。  
4) 形状補強筋は形状保持金物等で主鉄筋と堅固に固定すること。

設計図  
対象  
函渠工  
築館24  
(STA.484+73.00)  
C-Bx-4.00×3.00×  
4.80 コンクリートブ  
ロック積工詳細図

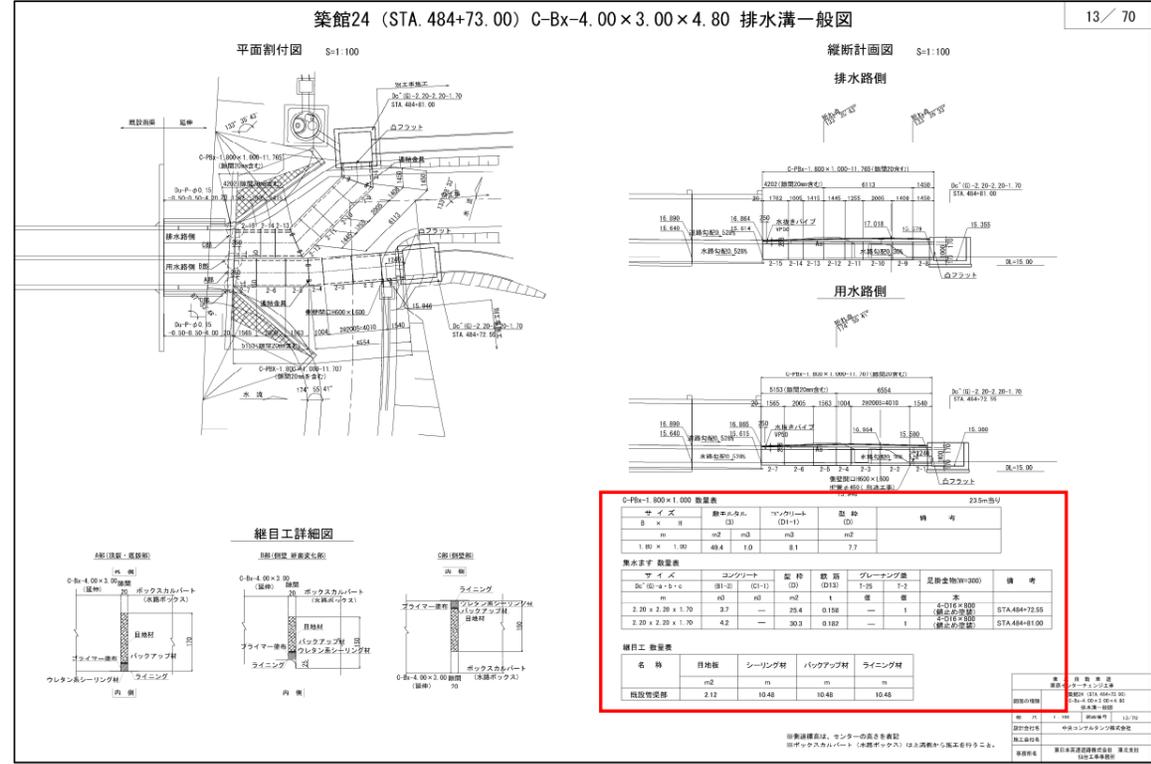


備考  
訂正

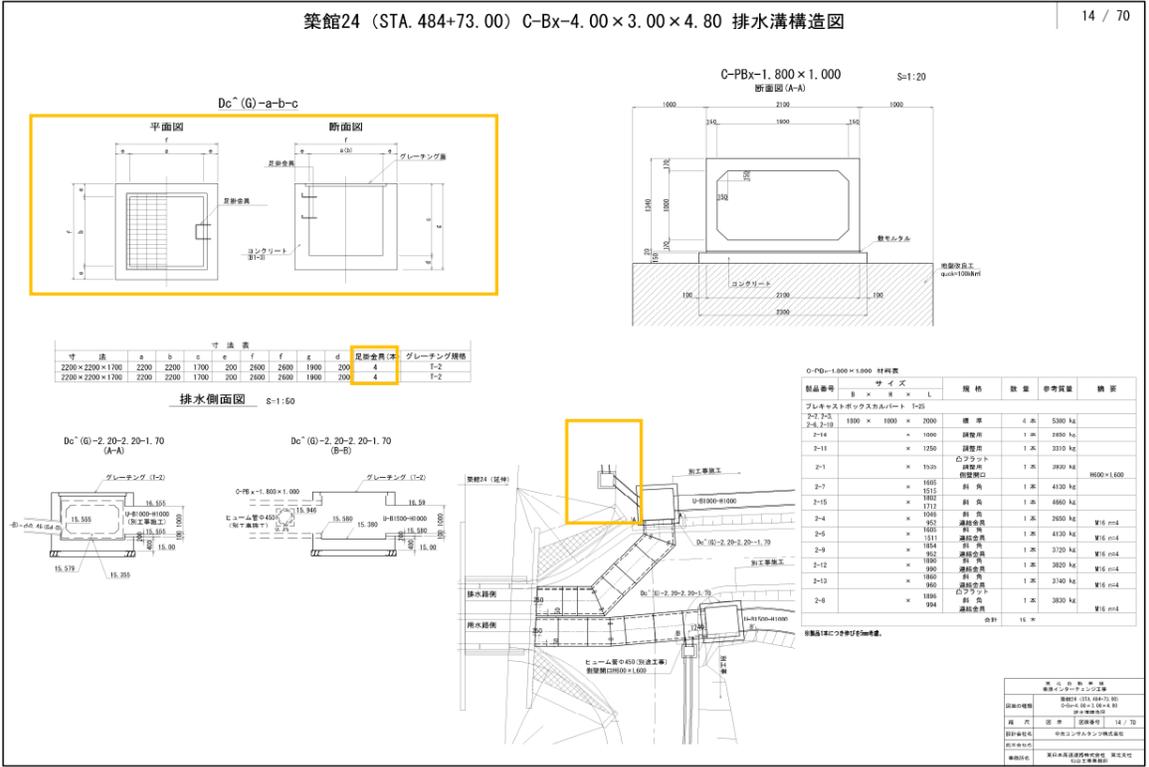
築館24 (STA. 484+73.00) C-Bx-4.00×3.00×4.80 排水溝一般図



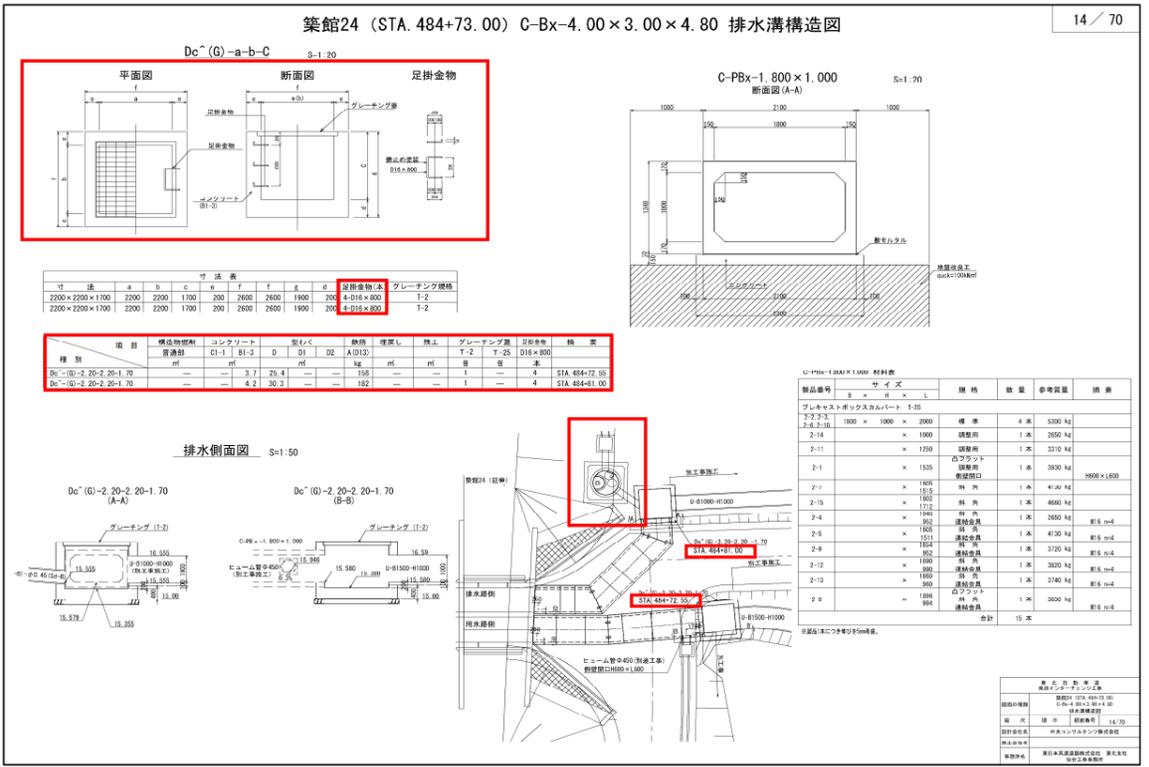
築館24 (STA. 484+73.00) C-Bx-4.00×3.00×4.80 排水溝一般図



設計図  
対象  
函渠工  
築館24  
(STA.484+73.00)  
C-Bx-4.00×3.00×  
4.80 排水溝構造図

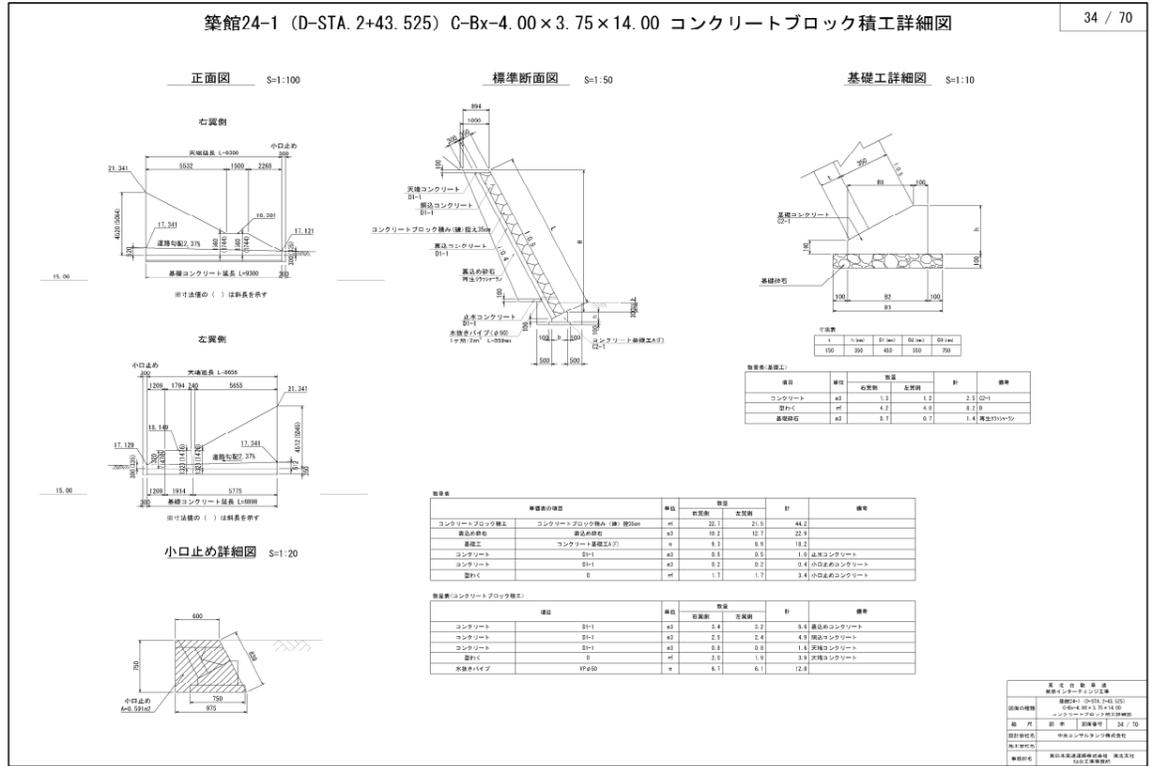


正  
備考  
訂正

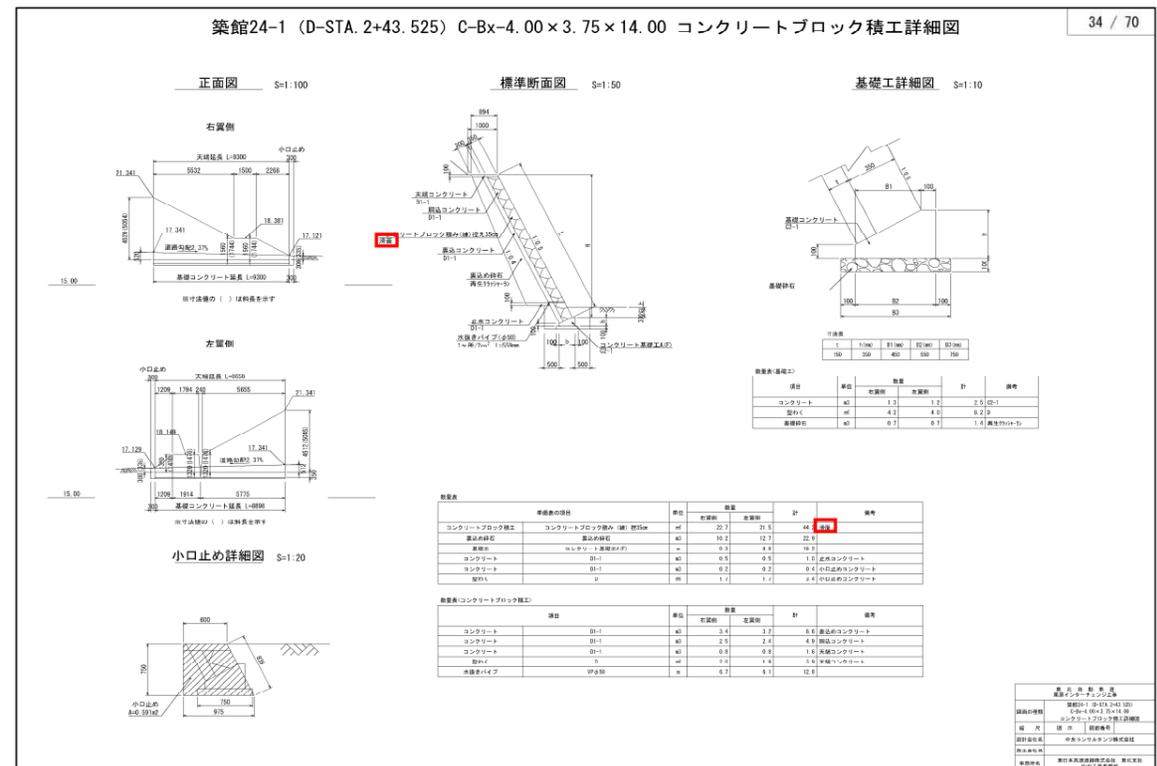


設計図  
対象  
函渠工  
築館24-1  
(D-STA.2+43.525)  
C-Bx-4.00×3.75×  
14.00 コンクリート  
ブロック積工詳細図

誤

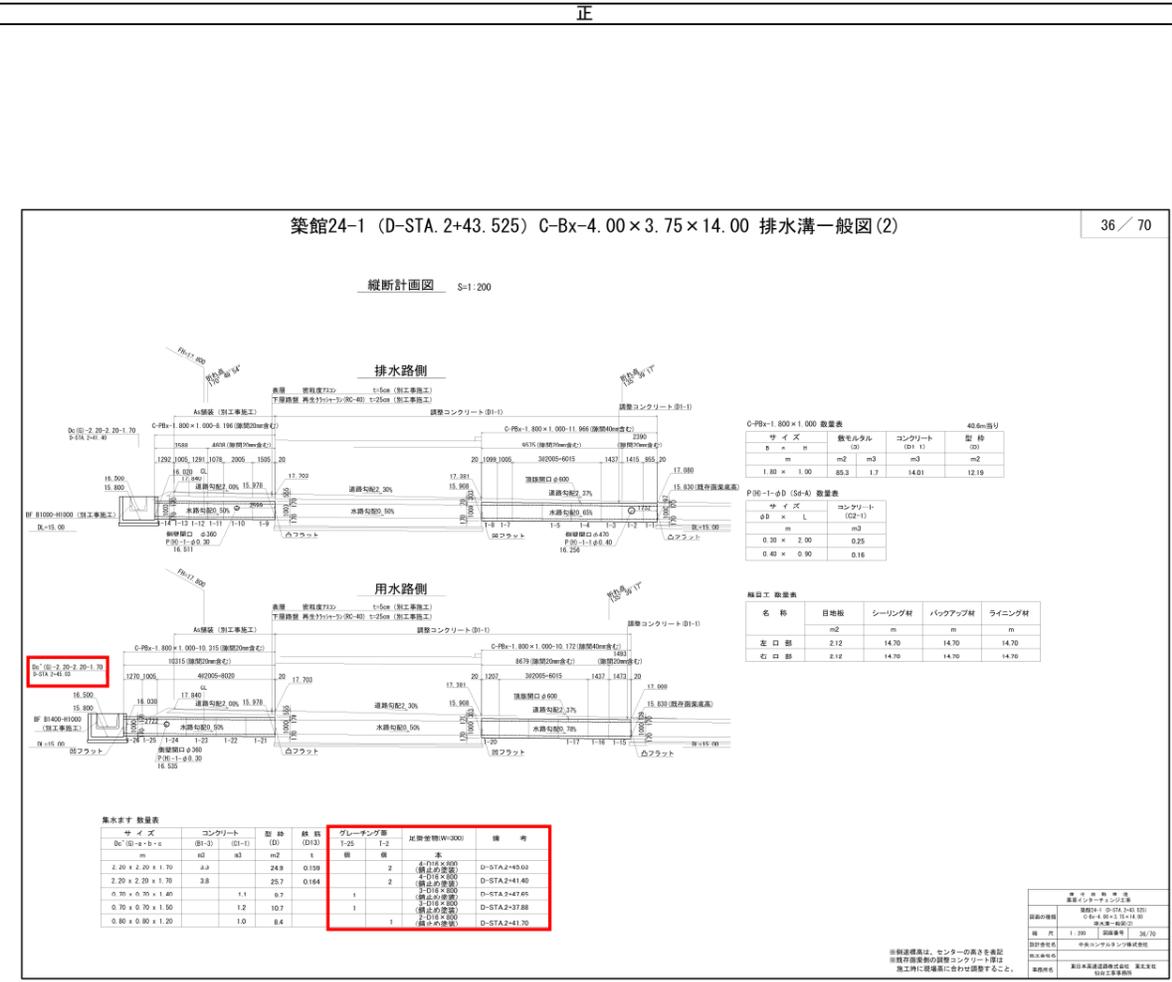
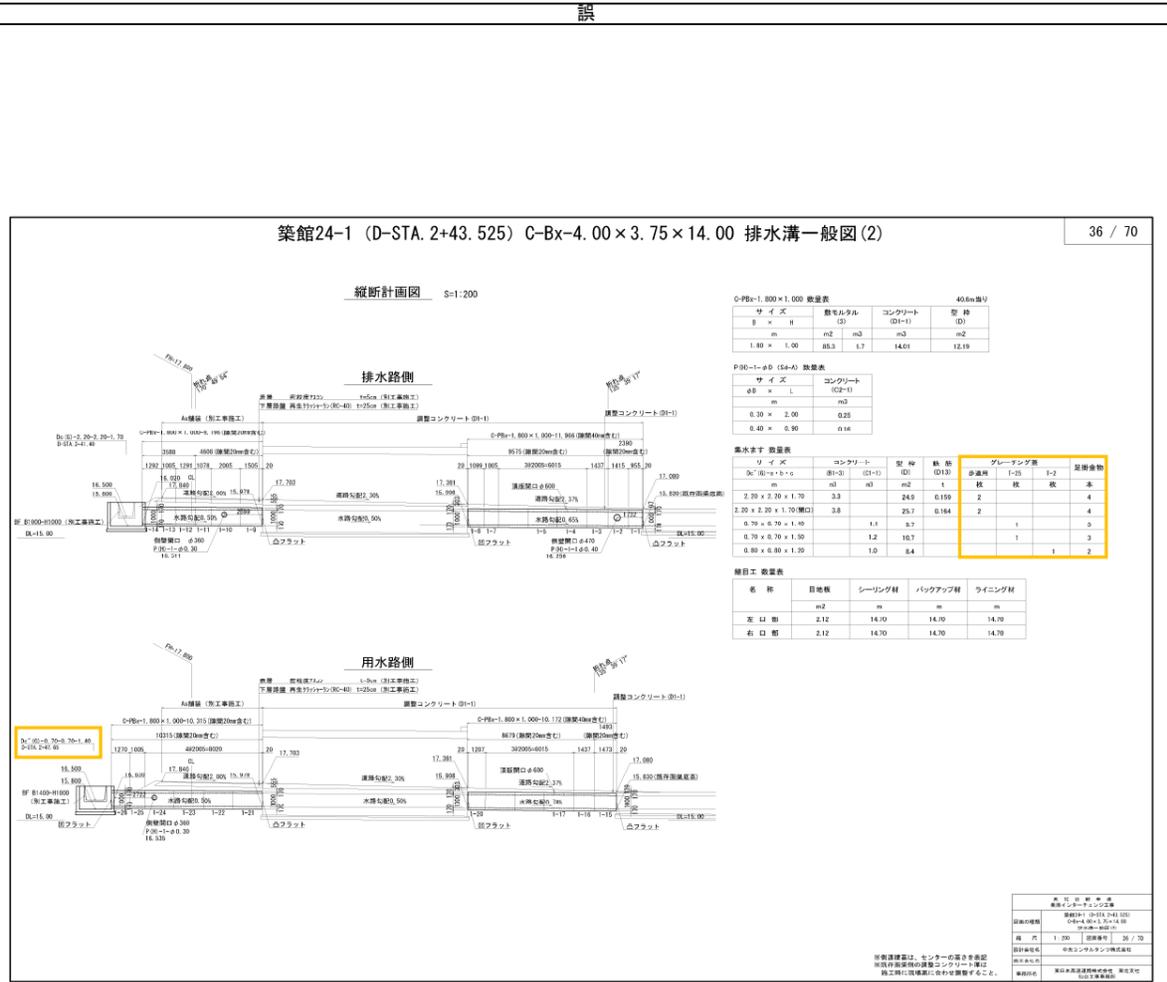


正



備考  
訂正

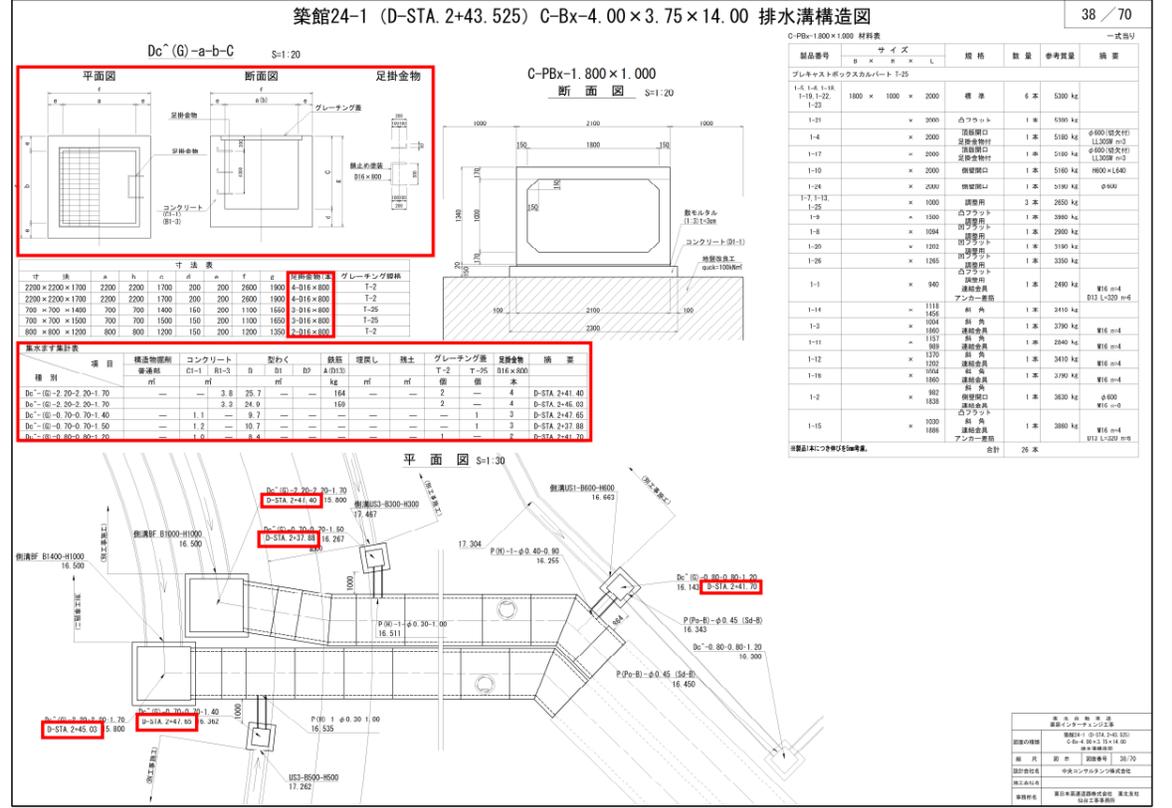
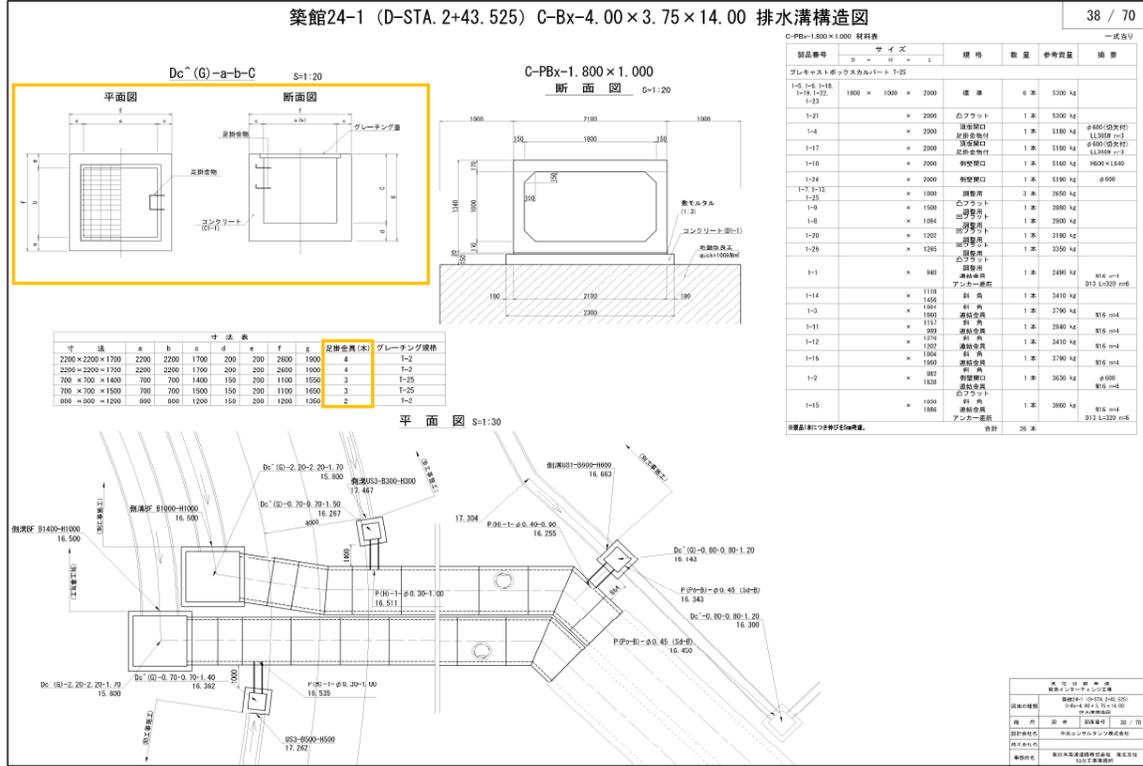
設計図  
対象  
函渠工  
築館24-1  
(D-STA.2+43.525)  
C-Bx-4.00×3.75×  
14.00 排水溝一般  
図(2)



設計図  
対象  
函渠工  
築館24-1  
(D-STA.2+43.525)  
C-Bx-4.00×3.75×  
14.00 排水溝一般  
図(2)

備考  
訂正

設計図  
 対象  
 函渠工  
 築館24-1  
 (D-STA.2+43.525)  
 C-Bx-4.00×3.75×  
 14.00 排水溝構造  
 図



備考  
 訂正

設計図  
対象  
函渠工  
築館25  
(STA.489+30.00)  
C-PBx-3.50×3.60  
×2.00 排水溝詳細  
図

築館25 (STA. 489+30.00) C-PBx-3.50×3.60×2.00 排水溝詳細図 59 / 70

Ds-PuL(G)-a-b S=1:40  
Ds-PuL(G)-0.30-0.40

Ds-PuL(G)-a-b-c

平面図 断面図

足掛金物  
グレーチング  
コンクリート

材料名	規格	数量
PLA	グレーチング (400×500)	10
コンクリート	T-25	1

寸法	a	b	c	e	f	g	h	足掛金物(本)	グレーチング規格
600×600×600	600	600	600	150	900	600	100	4	T-25
700×700×700	700	700	700	150	1000	700	100	4	T-25

設計者 橋本 隆夫  
 監理者 橋本 隆夫  
 図面番号 30/70  
 発行日 2024.08.10  
 発行場所 東京都中央区

築館25 (STA. 489+30.00) C-PBx-3.50×3.60×2.00 排水溝詳細図 59 / 70

Ds-PuL(G)-a-b S=1:40  
Ds-PuL(G)-0.30-0.40

Ds-PuL(G)-a-b-c S=1:20

平面図 断面図 足掛金物

グレーチング  
コンクリート  
足止め金物

材料名	規格	数量
PLA	グレーチング (400×500)	10
コンクリート	T-25	1

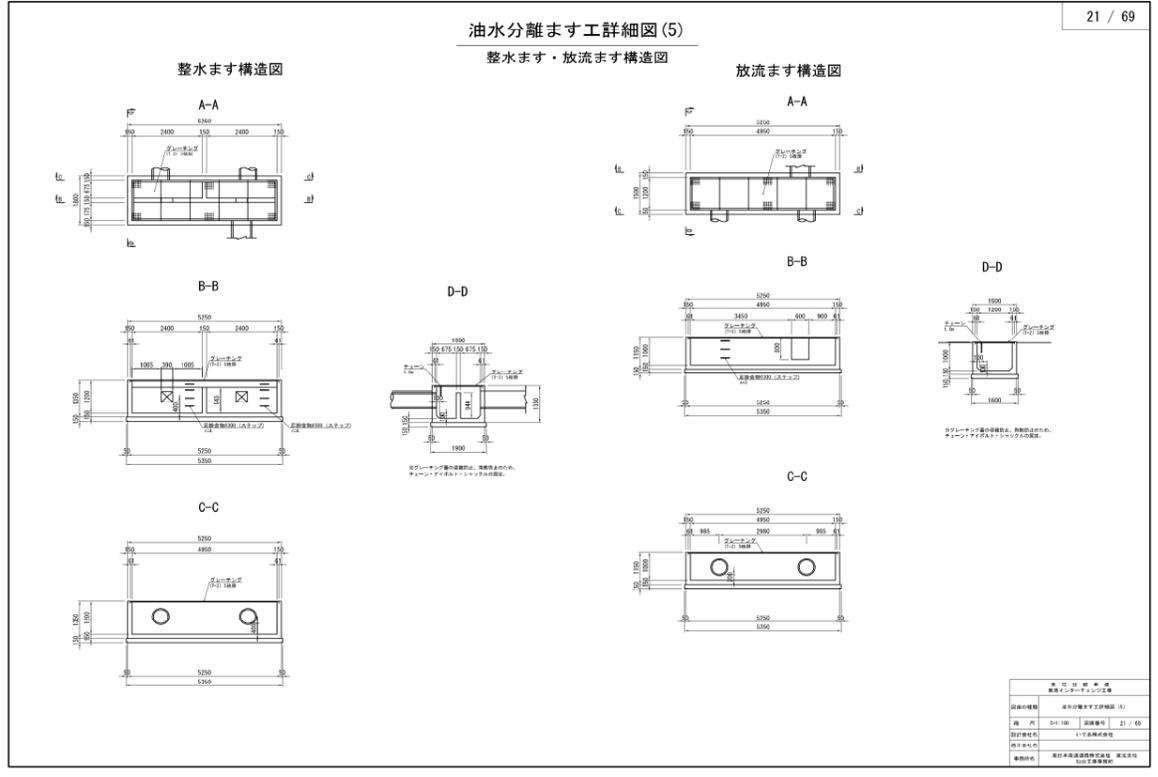
寸法	a	b	c	e	f	g	h	足掛金物(本)	グレーチング規格
600×600×600	600	600	600	150	900	600	100	4	T-25
700×700×700	700	700	700	150	1000	700	100	4	T-25

項目	構造物種別	コンクリート	型枠	鉄筋	埋戻し	既土	グレーチング	足掛金物	備考
橋脚	橋脚	0	0	0	0	0	0	0	
Ds-PuL(G)-0.30-0.40	排水溝	0.4	4.0	—	—	—	—	1	STA.488-32.43
Ds-PuL(G)-0.30-0.70	排水溝	0.5	5.2	—	—	—	—	1	STA.488-33.45

設計者 橋本 隆夫  
 監理者 橋本 隆夫  
 図面番号 30/70  
 発行日 2024.08.10  
 発行場所 東京都中央区

備考  
訂正

設計図  
詳細図  
対象  
油水分離ます詳細  
図(5)  
整水ます・放流ます  
構造図



正  
備考  
訂正

